

第 60 回学生生活実態調査 概要報告

全国大学生生活協同組合連合会
 ※データの無断転載はお断りいたします

はじめに 調査概要とサンプル特性について

<調査概要>

調査の目的	学生の生活、主に経済的な側面と大学生の意識や行動を調べ、大学生協の事業や活動の改善に役立てるとともに、調査結果の公表を行う。
調査の対象	全国の国公立および私立大学の学部学生
調査実施時期	2024 年 10~11 月(1963 年より毎年秋に実施 ※未実施年あり)
調査方法	学生を無作為抽出により抽出後、オンラインで調査(Web 上の画面から回答)
回答数	11,590 人(30 大学生協 回収率 24.0%)
調査項目の概要	収入・支出、奨学金、アルバイト、登校日数、サークル所属、就職活動、学生生活充実度、勉強時間、読書時間、ChatGPT など文章生成系 AI 利用状況・目的

	24実数	24構成比	23構成比
国公立	7,410	63.9	64.4
私立	4,180	36.1	35.6
総計	11,590	100.0	100.0

	24実数	24構成比	23構成比
文科系	5,584	48.2	48.2
理工系	4,392	37.9	37.4
医歯薬系	1,614	13.9	14.4
総計	11,590	100.0	100.0

	24実数	24構成比	23構成比	
自宅・実家暮らし	5,593	48.3	46.4	
自宅外(寮生+下宿生)	5,997	51.7	53.6	
住まい形態別	寮生	390	3.4	3.7
	下宿生	5,607	48.4	49.9
	アパート	3,026	26.1	27.7
	マンション	1,932	16.7	16.7
	学生会館	331	2.9	2.8
	下宿(食事付・食事無)	258	2.2	2.4
別食	その他	60	0.5	0.4
	食事付き	629	5.4	5.3
	食事なし	5,368	46.3	48.3
総計	11,590	100.0	100.0	

	24実数	24構成比	23構成比
男性	5,656	48.8	49.8
女性	5,072	43.8	44.6
回答しない	164	1.4	1.1
無回答	698	6.0	4.5
総計	11,590	100.0	100.0

	24実数	24構成比	23構成比
1年生	3,370	29.1	28.0
2年生	2,966	25.6	24.5
3年生	2,535	21.9	22.5
4年生以上	2,719	23.5	25.1
総計	11,590	100.0	100.0

- 実額平均(実額)
無回答の例数は含まず、「0」の例数を含む平均、特に注記のない「平均」は実額平均
- 有額平均(有額)
無回答と「0」の例数は含まない平均、「0」を除く回答の平均
- 学部 文系：文科系、理系：理工系、医歯薬：医歯薬系
- 4年：4年以上

<サンプル特性>

- (1) 第 60 回学生生活実態調査は 104 大学生協が参加、25,340 名から協力を得た。ただし、ここで紹介する数値は、地域・大学設置者・大学の規模などの構成比の変動が大きくなり過ぎないように指定した 30 大学生協(大学数は 31、国立大学 19・公立大学 2・私立大学 10)の 11,590 名のデータである。経年の変化をより正確にみることができるようになっている。
- (2) 前年と比較すると国公立大学が 0.5 ポイント減少、私立大学が 0.5 ポイント増加。
- (3) 学部別の男女構成比は、文科系 38.8:53.3、理工系 66.8:26.6、医歯薬系 34.4:57.2 となっている。(それぞれ、性別について「回答しない」「無回答」を除く)
- (4) 自宅生と自宅外生の構成比は、自宅 48.3:自宅外 51.7 と自宅外生が自宅生よりも多い。

今回調査結果の特徴

1. 物価高の影響により、自宅生・下宿生ともに消費支出はほとんどの項目で増加している。一方、貯金は減少した。物価高や奨学金返済への不安を背景に、「生活費やお金」に悩んでいる学生が引き続き最多である。
2. 収入では自宅生・下宿生ともにアルバイト代が増加している。時給単価引き上げと就労率上昇の影響と考えられる。「月収 7 万円以上」が増加傾向にあり、学業とアルバイトのバランスが懸念される者もいる。
3. 2020 年 4 月入学者のほとんどが大学を卒業し、2023 年 5 月より新型コロナが 5 類移行となり、キャンパスにおける「コロナ禍」はほぼ収束した。しかし、キャンパス滞在時間はコロナ禍前に比して短い状態が固定化している。コロナ禍を経た「新しい大学生活」が定着していることが読み取れる。
4. 「生成系 AI の利用経験あり」は 23 年 46.7%→24 年 68.2%に大幅に増加した。誤情報や倫理面などのリスクを理解したうえで、授業や研究、レポート作成の参考やプログラミング等に幅広く利用している。生成系 AI 等を活用した「新しい学びの姿」を読み取ることができる。

1. 学生の経済状況

(1) 自宅生の生活費(図表①)

収入は「アルバイト」が増加、支出はほとんどの項目で増加し、「貯金・繰越金」が減少

【図表①】1ヶ月の生活費<自宅生>

	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	構成比 (%)			金額差 (円)	
											24年	23年	19年	23年差	19年差
小遣い	15,040	14,270	13,550	12,780	13,480	10,700	10,370	10,980	10,350	10,580	15.5	15.7	20.0	230	▲ 2,900
奨学金	11,470	10,770	11,040	11,060	10,620	11,420	10,240	10,220	10,050	9,940	14.5	15.2	15.7	▲ 110	▲ 680
アルバイト	33,960	35,770	37,920	40,920	41,230	37,680	39,860	40,910	43,010	46,060	67.4	65.2	61.1	3,050	4,830
定職	240	70	190	240	300	370	490	110	540	240	0.4	0.8	0.4	▲ 300	▲ 60
その他	1,470	1,430	1,350	2,750	1,840	2,650	2,670	2,130	2,010	1,550	2.3	3.0	2.7	▲ 460	▲ 290
収入合計	62,190	62,310	64,070	67,750	67,480	62,820	63,630	64,350	65,970	68,370	100.0	100.0	100.0	2,400	890
食費	12,250	12,580	12,580	14,370	13,850	10,670	10,540	11,390	12,600	14,340	20.6	19.6	21.0	1,740	490
住居費	280	160	270	250	150	960	590	330	510	600	0.9	0.8	0.2	90	450
交通費	9,020	8,830	8,680	9,030	8,160	7,160	7,990	9,340	9,380	9,850	14.2	14.6	12.3	470	1,690
教養娯楽費	8,490	8,240	9,470	11,940	12,990	10,750	11,940	13,410	12,770	14,740	21.2	19.8	19.7	1,970	1,750
書籍費	1,680	1,450	1,340	1,540	1,620	1,740	1,680	1,520	1,300	1,450	2.1	2.0	2.5	150	▲ 170
勉学費	1,120	960	1,130	1,430	1,270	1,420	1,570	1,290	900	1,020	1.5	1.4	1.9	120	▲ 250
日常費	4,800	4,900	5,280	6,090	6,160	6,300	6,270	5,720	5,070	5,890	8.5	7.9	9.3	820	▲ 270
電話・通信	2,670	2,280	2,210	1,890	1,780	1,730	1,470	1,710	1,460	1,410	2.0	2.3	2.7	▲ 50	▲ 370
その他	2,410	3,180	2,770	2,640	3,220	1,790	2,070	1,920	1,930	1,850	2.7	3.0	4.9	▲ 80	▲ 1,370
貯金・繰越金	17,190	18,090	18,880	18,050	16,880	19,610	18,850	16,950	18,410	18,360	26.4	28.6	25.5	▲ 50	1,480
支出合計	59,890	60,690	62,590	67,200	66,080	62,130	62,970	63,580	64,340	69,500	100.0	100.0	100.0	5,160	3,420

<前年(2023年)との比較>

- A) 自宅生の「収入合計」は 68,370 円と 2,400 円増加した。
- B) 費目別では「アルバイト」が 46,060 円と +3,050 円。「アルバイト」の収入に占める割合は 67.4%となり、前年 +2.2 ポイント。「アルバイト」収入の金額・収入構成比とも 70 年以降最大となった。奨学金は 9,940 円(前年▲ 110 円)と微減。
- C) 保護者等からもらう「小遣い」は 10,580 円と 230 円増加した。
- D) 「支出合計」は 69,500 円で 5,160 円増加。費目別では「教養娯楽費」が 14,740 円(前年+1,970 円)、「食費」14,340 円(同+1,740 円)。「電話・通信」「その他」以外の消費支出が増加し、「貯金・繰越金」が減少している。

(2)下宿生の生活費(図表②～③)

収入は「仕送り」「アルバイト」が増加、支出は「貯金・繰越金」以外のすべての項目が増加

【図表②】1ヶ月の生活費<下宿生>

	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	構成比 (%)			金額差 (円)	
											24年	23年	19年	23年差	19年差
仕送り	71,440	70,610	72,980	71,500	72,810	70,410	71,880	67,650	70,120	72,350	54.8	54.3	56.1	2,230	▲ 460
奨学金	23,270	21,260	20,190	20,530	20,900	21,130	20,380	20,640	19,660	19,140	14.5	15.2	16.1	▲ 520	▲ 1,760
アルバイト	25,320	27,120	28,770	31,670	33,600	26,360	29,130	32,340	36,110	37,540	28.4	27.9	25.9	1,430	3,940
定職	230	30	130	470	370	450	450	490	420	600	0.5	0.3	0.3	180	230
その他	2,320	1,800	1,820	3,110	2,180	3,900	3,450	3,180	2,940	2,520	1.9	2.3	1.7	▲ 420	340
収入合計	122,580	120,820	123,890	127,280	129,860	122,250	125,280	124,290	129,240	132,140	100.0	100.0	100.0	2,900	2,280
食費	24,760	24,770	25,190	26,230	26,390	24,570	24,680	24,130	25,880	26,110	19.8	20.3	20.4	230	▲ 280
住居費	53,100	51,990	52,820	52,560	53,930	52,910	53,920	53,020	54,130	56,090	42.6	42.5	41.8	1,960	2,160
交通費	3,320	3,280	3,330	4,230	4,070	3,370	3,850	4,210	4,330	5,050	3.8	3.4	3.2	720	980
教養娯楽費	9,240	8,800	9,830	11,520	12,870	10,990	11,760	13,270	12,840	13,870	10.5	10.1	10.0	1,030	1,000
書籍費	1,720	1,590	1,510	1,710	1,860	1,850	1,700	1,540	1,500	1,500	1.1	1.2	1.4	0	▲ 360
勉学費	1,490	1,360	1,380	1,830	1,900	1,870	1,900	1,430	1,260	1,300	1.0	1.0	1.5	40	▲ 600
日常費	5,540	5,810	6,070	7,260	7,620	7,120	7,520	7,430	7,330	7,520	5.7	5.7	5.9	190	▲ 100
電話・通信	4,100	3,510	3,800	3,710	3,550	3,370	3,110	3,460	3,190	3,320	2.5	2.5	2.8	130	▲ 230
その他	2,430	3,220	3,010	3,310	3,430	2,140	2,310	2,170	2,290	2,710	2.1	1.8	2.7	420	▲ 720
貯金・繰越金	12,500	13,270	13,820	13,740	13,470	12,990	14,300	12,970	14,740	14,250	10.8	11.6	10.4	▲ 490	780
支出合計	118,200	117,610	120,750	126,100	129,090	121,180	125,040	123,630	127,500	131,710	100.0	100.0	100.0	4,210	2,620

<前年(2023年)との比較>

- A) 「収入合計」は 132,140 円となり 2,900 円増加した。「仕送り」が 72,350 円と前年+2,230 円。仕送り額についてはコロナ禍以前の水準に戻った。
- B) 「アルバイト」は 37,540 円と 1,430 円増加した。収入の 28.4%をアルバイト収入が占めている。
- C) 「奨学金」は 19,140 円と 520 円減少。

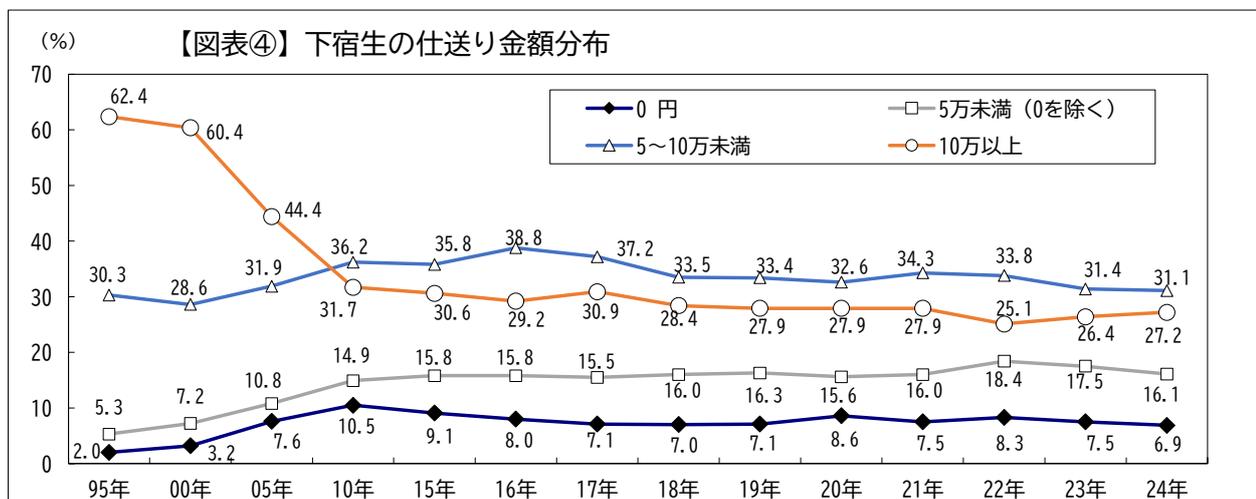
【図表③】奨学金の有無による
下宿生1ヶ月の生活費 (円)

	奨学金受給者	奨学金非受給者
仕送り	40,920	86,500
奨学金	61,650	-
アルバイト	37,800	37,420
定職	530	630
その他	1,860	2,820
収入合計	142,760	127,360
食費	25,320	26,510
住居費	53,290	57,350
交通費	5,130	5,010
教養娯楽費	14,080	13,790
書籍費	1,640	1,420
勉学費	1,500	1,210
日常費	7,720	7,440
電話・通信	3,600	3,170
その他	3,540	2,340
貯金・繰越金	22,930	10,350
支出合計	138,730	128,590

- 奨学金を受給している下宿生だけを取り上げると、奨学金がその収入の 43.2%を占めている。
- D) 「支出合計」は 131,710 円と 4,210 円増加。費目別では「住居費」56,090 円(前年+1,960 円)で増加、「食費」26,110 円(+230 円)でほぼ横ばい、「教養娯楽費」13,870 円(前年+1,030 円)で増加。なお、支出構成比については各項目ともに変化はほとんどない。
- E) 「貯金・繰越金」は 14,250 円と 490 円減少。一方、「貯金・繰越金」以外のすべての消費支出は前年より増加した。

(3) 下宿生の仕送り額の推移(図表④)

仕送り額「10 万円以上」は 95 年以降長期的に減少傾向、物価高を受けて前年比若干の増加



- A) 「仕送り金額 10 万円以上」は、95 年から 10 年にかけて大きく減り、その後も減少傾向。
- B) 09 年に「5 万以上 10 万未満」の割合が「10 万円以上」を逆転した。
- C) 仕送り「0 円」は、概ね 7%前後で推移している。

(4) 「仕送り」が「0 円」の下宿生の経済状況(図表⑤)

仕送り「0 円」下宿生の奨学金は全下宿生平均の 3 倍超

- A) 収入では、アルバイトと奨学金が全下宿生平均より多い。特に奨学金は全下宿生平均の 3 倍を超える。
- B) 支出では、住居費が全下宿生平均より約 7,000 円少なく、食費、教養娯楽費も少ない。

【図表⑤】 「仕送り 0 円」の下宿生 1 ヶ月の生活費 (円)

	仕送り0円下宿生	下宿生
仕送り	—	72,350
奨学金	66,540	19,140
アルバイト	47,960	37,540
定職	2,580	600
その他	6,110	2,520
収入合計	123,190	132,140
食費	23,500	26,110
住居費	48,870	56,090
交通費	4,570	5,050
教養娯楽費	12,510	13,870
書籍費	1,660	1,500
勉学費	1,470	1,300
日常費	7,380	7,520
電話・通信	3,200	3,320
その他	4,050	2,710
貯金・繰越金	18,140	14,250
支出合計	125,350	131,710

(5)奨学金・授業料減免(図表⑥～⑨)

奨学金受給者は 3 割に満たないが、奨学金制度の充実や授業料減免を求める声が寄せられている

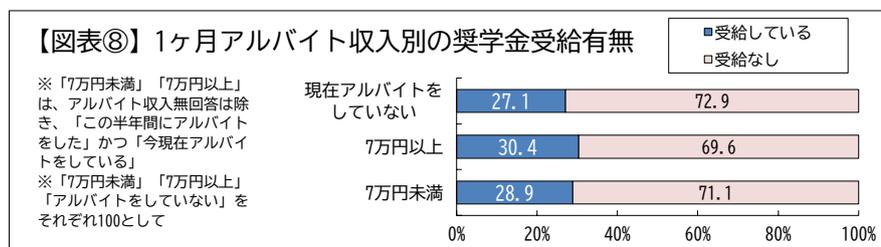
【図表⑥】 受給している奨学金の種類

	(%)										(円)				
	19年	20年	21年	22年	23年	24年	自宅生	下宿生	寮生	文系	理系	医歯薬	国立	私立	受給有額平均
受給している	30.5	32.1	30.3	30.8	28.9	28.6	24.8	31.2	45.9	30.9	25.6	28.7	27.5	30.5	57,050
貸与型のみ受給	23.1	21.1	18.7	19.2	17.1	16.0	13.5	18.5	17.4	17.7	14.2	15.3	15.3	17.3	56,560
給付型のみ受給	3.4	6.0	6.6	6.9	6.9	7.3	6.8	7.2	16.4	7.5	6.8	8.1	7.4	7.3	52,480
貸与型+給付型受給	2.6	3.6	3.3	3.0	2.7	2.6	2.1	2.8	6.4	2.7	2.5	2.5	2.6	2.7	74,770
無回答・不明	1.4	1.4	1.6	1.7	2.1	2.6	2.4	2.6	5.6	2.9	2.1	2.8	2.3	3.2	—
受給していない	69.5	67.9	69.7	69.2	71.1	71.4	75.2	68.8	54.1	69.1	74.4	71.3	72.5	69.5	—
生活費の中の割合	16.3	18.0	16.6	16.8	15.8	14.9	14.5	14.5	26.2	15.8	13.3	16.3	14.3	16.1	—
受給有額平均(円)	56,540	56,870	56,380	55,980	58,420	57,050	48,680	61,650	65,450	57,070	54,270	63,960	55,940	59,200	—

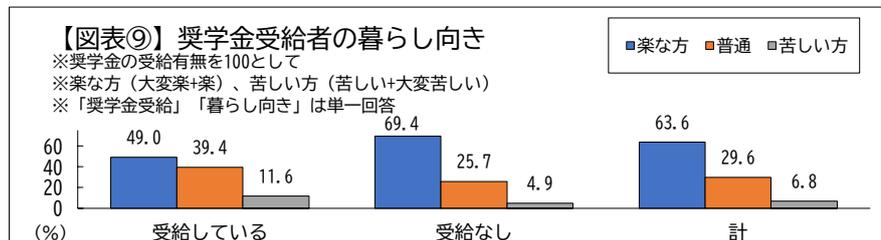
【図表⑦】 授業料の減額や免除

	(%)									
	24年	自宅生	下宿生	寮生	文系	理系	医歯薬	国公立	私立	
全額免除を受けている(特待生を含む)	3.6	3.3	3.3	13.6	3.0	4.0	4.8	5.2	0.7	
部分免除(減額)を受けている	5.8	6.3	5.0	10.3	7.0	4.8	4.5	4.0	9.0	
申請をしたが受けられなかった	3.3	3.1	3.5	4.1	3.4	3.5	2.5	3.1	3.8	
条件にあわず、申請できなかった	17.2	14.6	19.4	21.5	15.0	19.9	17.1	18.8	14.3	
わからない	24.9	27.5	22.7	18.5	27.4	23.4	20.1	20.2	33.2	
授業料の減免は必要ない	42.0	41.6	43.3	29.5	40.4	41.8	48.4	46.2	34.7	
無回答	3.2	3.5	2.9	2.6	3.9	2.6	2.5	2.5	4.3	

【図表⑧】 1ヶ月アルバイト収入別の奨学金受給有無



【図表⑨】 奨学金受給者の暮らし向き



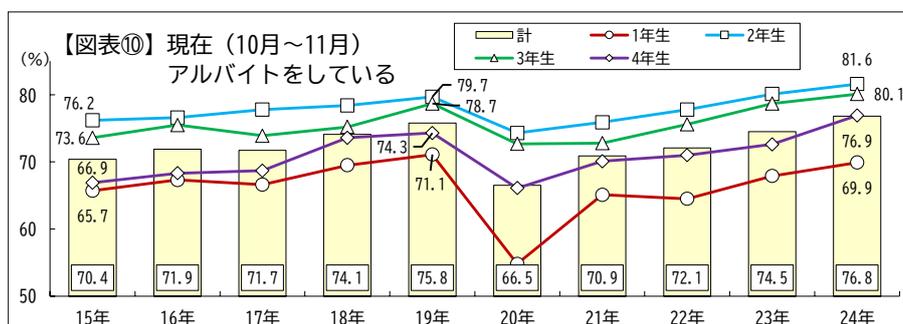
- A) 何らかの奨学金を「受給している」は 28.6%と 19 年以降で最低を更新。
- B) 貸与型のみ受給は 16.0%、給付型のみ受給 7.3%、貸与型も給付型も受給は 2.6%となっている。
- C) 受給者の受給平均金額(有額平均)は 57,050 円で、前年より 1,370 円減少(19 年対比+510 円)。
- D) 将来奨学金を返還することに不安を「常に感じている」+「時々感じている」は貸与型奨学金受給者の 67.9%(前年▲1.9 ポイント)を占めている(貸与型奨学金受給者を 100 として)。
- E) 授業料減免を受けているのは 9.4%で、そのうち「全額免除」は 3.6%。「部分免除(減額)」5.8%。
- F) 授業料減免を「申請をしたが受けられなかった」が 3.3%、「条件が合わず、申請できなかった」が 17.2%。
- G) 1ヶ月のアルバイト収入で「7 万円以上」は 30.4%が奨学金を受給、「7 万円未満」は 28.9%、「アルバイトをしていない」27.1%であり、大きな違いはない。(半年間かつ現在アルバイトをしている「7 万円未満」「7 万円以上」、「アルバイトをしていない」をそれぞれ 100 として)
- H) 奨学金受給者の暮らし向きでは、「受給している」人のうち「楽な方」は 49.0%で、「受給なし」の 69.4%と比べると顕著に低い。「受給している」人のうち「苦しい方」も 11.6%で他に比べ高い。(奨学金の受給有無をそれぞれ 100 として)

I) 自由記入欄(巻末資料参照)でも、奨学金・授業料減免の拡充を望む声が見られる。

- 奨学金の申請をしたが受理されなかった。収入が充分であるため受理できないと言われたが、学費払うのがやっとでバイトたくさん入っているので学業にも専念できない。(私立・文科系・2年・女性・自宅外)
- 将来の事に対して、奨学金や夢の事など漠然と不安に苛まれている。(私立・文科系・2年・男性・自宅外)
- 奨学金の返済が怖い。漠然とした不安が将来にあります。奨学金の話はなかなか気軽に話せる内容でないため、誰にも不安を打ち明けられず、また、日々お金がかかるので必死にアルバイトをしています。金銭的に苦しい学生がいるのは事実かな、と思います。(国公立・理工系・2年・女性・自宅)
- 親が払ってくれているのは授業料と家賃で、仕送りはなく、光熱費は自分持ちなので、バイトを掛け持ちしていても、趣味と部活をどちらも楽しむほどのお金が稼げず、毎月お金の心配をしています。大学自体は友達がいって楽しいのですが、貸与型の奨学金は借金と思うと申し込む気にはなれず、しんどいです。親の一方が諸事情で所得を減らしたために税金などの関係で親からの仕送りが無い状況ですが、前年の所得で決められるので給付型の奨学金の対象者にはなれず、成績はいいのに受給できません。もっと奨学金を申請しやすくしてほしいと思います。(国公立・文科系・2年・女性・自宅外)

(6)アルバイト(図表⑩～⑮)

アルバイト就労率は過去 10 年間で最高、「1 ヶ月 7 万円以上」の層が増加傾向



【図表⑪】 1 ヶ月のアルバイト収入と週労働時間数の推移 円/%/時間

	19年	20年	21年	22年	23年	24年	
現在している (%)	75.8	66.5	70.9	72.1	74.5	76.8	
現在していない (%)	24.2	33.5	29.1	27.9	25.5	23.2	
(円) 有額	全体	46,910	45,630	45,850	46,320	48,700	50,970
	自宅生	48,800	48,660	48,450	48,940	50,760	53,150
	下宿生	44,930	42,020	42,540	43,620	47,000	48,860
	寮生	42,850	40,650	41,010	39,870	42,160	46,200
1週間の労働時間 (有額平均・時間)	12.6	12.0	11.8	12.1	12.1	12.1	

【図表⑫】 1 週間のアルバイト時間数 収入別 (時間)

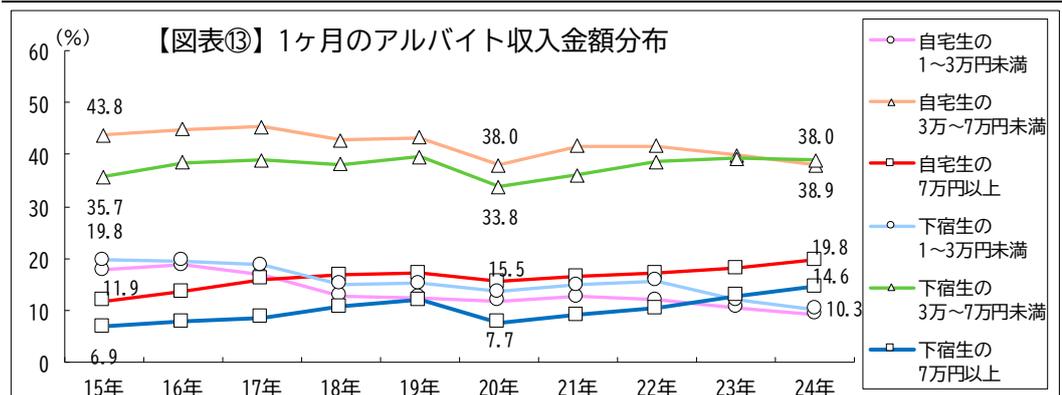
	24年
1 週間の労働時間 (有額平均)	12.1
1 ヶ月アルバイト収入 7 万円未満	10.2
1 ヶ月アルバイト収入 7 万円以上	17.7

※収入別はアルバイト時間数または収入の無回答を除く

時間分布 (%)

10時間未満	10時間以上 20時間未満	20時間以上 30時間未満	30時間以上	無回答
30.6	44.5	11.9	2.0	11.0

※時間分布は「現在アルバイトをしている」を100として



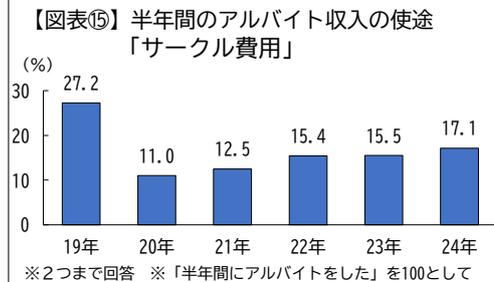
		15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
自宅生	1~3万円未満	17.8	18.8	16.9	12.9	12.6	11.9	12.7	12.1	10.6	9.3
	3万~7万円未満	43.8	44.8	45.4	42.8	43.3	38.0	41.7	41.6	39.9	38.0
	7万円以上	11.9	13.6	16.0	16.9	17.2	15.5	16.6	17.2	18.2	19.8
下宿生	1~3万円未満	19.8	19.5	18.7	15.1	15.3	13.6	15.0	15.7	12.1	10.3
	3万~7万円未満	35.7	38.5	39.0	38.2	39.6	33.8	36.1	38.7	39.2	38.9
	7万円以上	6.9	7.9	8.7	10.7	12.1	7.7	9.2	10.5	12.8	14.6

※ アルバイト収入0円と無回答を除く

【図表⑭】半年間のアルバイト収入の使途 (上位6項目)

	19年	20年	21年	22年	23年	24年
旅行・レジャー費用	34.8	20.4	22.8	30.1	32.9	33.3
生活費のゆとり	26.2	29.1	29.5	28.6	30.1	28.9
生活費の維持	26.5	28.3	25.4	24.4	25.7	24.2
貯金	18.1	34.3	33.1	27.9	24.1	23.4
サークル費用	27.2	11.0	12.5	15.4	15.5	17.1
衣類等の購入費用	20.5	23.6	25.0	24.7	19.4	18.5

※2つまで回答 ※「半年間にアルバイトをした」を100として



※2つまで回答 ※「半年間にアルバイトをした」を100として

A) アルバイト就労率(図表⑩⑪)

- ・ 現在(24年10月~11月)の就労率は76.8%(前年+2.3・19年+1.0ポイント)と、コロナ禍前(19年)水準を超え、過去10年間で最高。学年別では1年生以外の全学年でコロナ禍前を上回っている。

B) アルバイト収入(図表⑪⑫)

- ・ 1ヶ月のアルバイト収入有額平均は50,970円であり、コロナ禍前を超えている。アルバイト就労率の回復と時間給アップの相乗効果と考えられる。
- ・ アルバイトをしている人の週当たり平均時間は12.1時間であり、前年から変化はない。
- ・ アルバイト収入が「1ヶ月7万円以上」は1週間の労働時間が平均17.7時間で、「1ヶ月7万円未満」の平均10.2時間との大きな開きがあった。

C) 1ヶ月のアルバイト収入金額分布(図表⑬)

- ・ 自宅生・下宿生ともに「1ヶ月7万円以上」の収入がある層が20年以來継続的に増加傾向。自宅生(19.8%)、下宿生(14.6%)
- ・ 前述の通り、「1ヶ月7万円以上」の層は、週労働時間がそれ未満に比べ長いいため、健康面や学業とのアンバランスが懸念される。(図表⑫)

D) アルバイト収入の使途(図表⑭⑮) ※半年間に「アルバイトをした」を100として

- ・ 一番多いのは「旅行・レジャー費用」33.3%(前年+0.4・19年▲1.5ポイント)。続いて「生活費のゆとり」28.9%(同▲1.2・+2.7ポイント)、「貯金」23.4%(同▲0.7ポイント・+5.3ポイント)となっている。
- ・ 「サークル費用」は17.1%で、最も低かった20年から回復しているが、19年のコロナ禍前水準27.2%には戻っていない。

(7)半年間の特別費(図表⑩⑪)

A)「合宿代」実施率は
36.1%で 19 年の
35.0%を上回った。
有額平均は
46,300 円で前年
+800 円と微増、
19 年と比較しても
▲800 円で、ほぼ
回復。

【図表⑩】 半年間 (24年4月~9月) の特別費 (いくつでも)

	24年4月~9月の実施 (%)						24年4月~9月に実施した人の平均 (円)					
	19年	20年	21年	22年	23年	24年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
合宿代	35.0	11.2	17.1	29.2	35.4	36.1	47,100	25,400	29,900	40,800	45,500	46,300
国内旅行	44.6	29.3	34.3	49.3	47.4	45.9	56,400	44,300	52,300	67,600	69,600	68,400
帰省代	35.2	25.8	28.4	33.9	35.6	33.8	26,900	23,100	25,000	26,400	28,400	27,200
留学	3.3	0.7	0.5	1.0	2.8	2.2	327,800	323,100	112,800	450,600	527,900	530,900
海外旅行	14.6	0.8	0.3	1.8	7.5	8.2	143,900	115,800	117,200	229,900	204,500	163,400
運転免許	15.8	17.8	16.7	16.8	15.9	14.8	252,800	264,400	259,100	264,100	271,800	273,300
各種スクール	3.8	8.4	10.3	8.7	7.1	6.8	131,400	74,600	81,400	84,600	95,900	97,700
高額商品	15.7	23.6	22.3	18.9	16.3	14.8	83,500	107,200	105,600	105,300	110,900	116,100
衣料品	48.9	49.7	51.1	57.5	53.4	49.7	32,000	30,300	32,500	31,800	30,000	30,500
引越し	2.0	1.9	2.0	1.7	2.0	1.1	80,600	111,800	117,600	144,600	95,700	116,900
就職活動	17.6	15.2	14.9	15.4	15.2	12.7	44,600	31,600	30,800	33,500	32,000	32,700
その他	2.4	2.2	2.7	2.8	2.3	2.4	73,200	83,200	63,800	68,100	85,000	81,700
							合計	207,900	172,700	173,600	203,900	227,300

B)「国内旅行」の実施率は昨年を下回り 2 年連続で下落したが、19 年は上回った。
C)「海外旅行」の実施率は 8.2%と昨年を上回ったが 19 年比ではマイナス。
D)「高額商品購入」の有額平均額は前年+5,200 円で、19 年よりも 32,600 円増えた。
E) 今後の予定は「国内旅行」「衣料品」「帰省」「合宿」が上位を占める。

【図表⑪】 今後半年間の特別費予定 (いくつでも)

	24年10月~25年3月に実施する予定 (%)					
	19年	20年	21年	22年	23年	24年
合宿	21.2	15.4	17.1	20.8	24.2	24.0
国内旅行	42.3	36.9	38.9	44.8	43.6	41.5
スノーボード・スキー	11.8	8.7	10.8	11.9	11.3	9.9
帰省	30.9	30.5	29.6	32.7	33.5	31.5
留学	3.0	0.8	1.0	1.5	2.2	2.5
海外旅行	18.6	1.3	1.4	4.7	10.1	10.6
運転免許	6.1	6.1	6.7	6.3	6.4	6.7
各種スクール	2.4	5.2	5.9	5.3	3.4	3.3
耐久消費財・高額商品	7.3	8.4	8.9	7.1	6.9	5.7
衣料品	34.0	40.6	41.5	44.0	41.3	37.6
引越し	5.8	6.4	6.9	6.8	5.7	5.5
就職活動	9.9	11.5	10.7	9.5		8.5
その他	2.0	1.5	2.1	2.0	2.1	1.7
予定額(円)(有額平均)	157,500	116,700	131,900	163,400	180,400	189,600

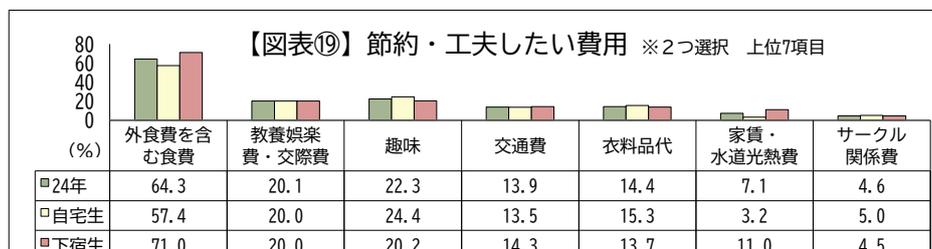
*23年支出予定の「就職活動」なし

(8)暮らし向き(図表⑬⑭)

【図表⑬】 暮らし向きと今後の見通し

		(%)															
		19年	20年	21年	22年	23年	24年	自宅生	下宿生	寮生	文系	理系	医歯薬	1年	2年	3年	4年
向 暮 し	楽な方	58.8	61.9	63.0	60.6	63.7	63.6	67.2	60.4	57.4	64.2	64.3	59.6	62.9	61.8	64.0	66.0
	普通	32.4	30.9	30.7	31.3	29.2	29.6	26.8	32.2	33.1	28.9	29.2	33.3	30.5	30.6	29.3	27.6
	苦しい方	8.8	7.2	6.4	8.1	7.2	6.8	6.0	7.4	9.5	6.9	6.6	7.1	6.6	7.6	6.7	6.4
見 今 通 後 しの	よくなりそう	21.3	16.0	19.8	20.5	23.6	24.0	20.3	27.7	24.4	24.3	23.1	25.4	25.2	20.9	23.0	26.7
	変わらない	47.1	50.3	50.1	47.3	45.2	46.5	47.2	46.0	42.6	45.0	47.5	48.5	49.4	49.7	46.2	39.5
	苦しくなりそう	22.6	23.2	20.2	22.3	21.5	20.5	21.6	19.0	25.1	21.2	20.2	18.8	16.6	19.5	21.0	25.9
	わからない	6.9	8.4	7.8	7.7	7.4	6.8	8.1	5.7	5.1	7.2	6.7	5.6	6.3	7.5	7.2	6.3
	考えたことがない	2.1	2.1	2.1	2.3	2.2	2.2	2.8	1.6	2.8	2.3	2.3	1.7	2.5	2.4	2.5	1.5

※暮らし向き、今後の見通しとも単一回答



A) 暮らし向きが「楽な方針」は 63.6%で前年より 0.1 ポイント減少し、「苦しい方針」も 6.8%と前年より 0.4 ポイント減少した。
B) これから先の見通しは「変わらない」46.5%(前年+1.3 ポイント)、「よくなりそう計」24.0%(同+0.4 ポイント)、「苦しくなりそう計」20.5%(同▲1.0 ポイント)と、明るい見通しが若干の増加。

C) 生活費の中で節約・工夫したい費目(2 つまで)の上位 5 位は次の通りだった。

- 1) 外食費を含む食費 64.3%
- 2) 趣味 22.3%
- 3) 教養娯楽費・交際費 20.1%
- 4) 衣料品代 14.4%
- 5) 交通費 13.9%

D) 生活費の中で節約・工夫したい費目で、下宿生の「外食費を含む食費」は 71.0%、「家賃・水道光熱費」は 11.0% であり自宅生よりも顕著に高い。

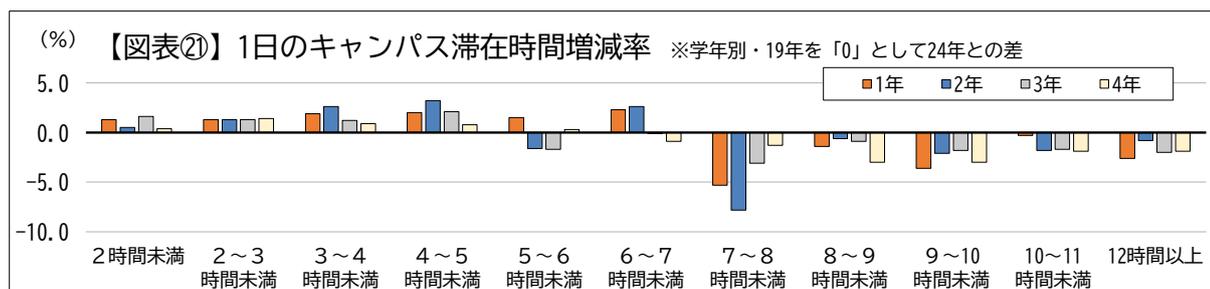
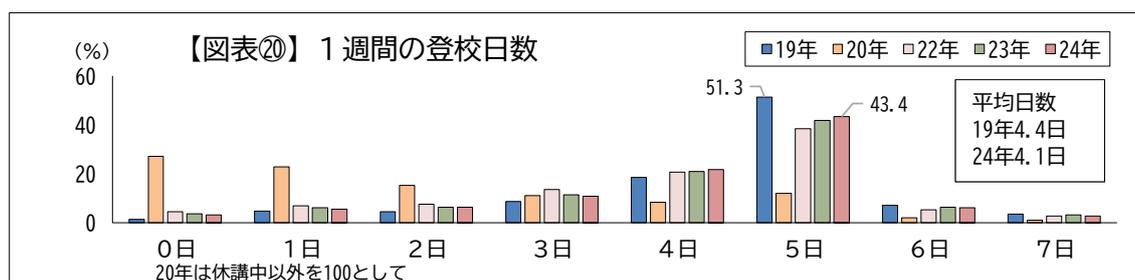
※暮らし向き:「楽な方針」は「大変楽な方」+「楽な方」、「苦しい方針」は「苦しい方」+「大変苦しい方」

※今後の見通し:「よくなりそう計」は「かなりよくなりそう」+「少しはよくなりそう」、「苦しくなりそう計」は「少し苦しくなりそう」+「かなり苦しくなりそう」

2. 大学生活・学生の意識

(1) 登校日数、キャンパス滞在時間(図表⑳㉑)

キャンパス滞在時間 7 時間以上はコロナ禍前より減少し、滞在時間が短い状態が固定化

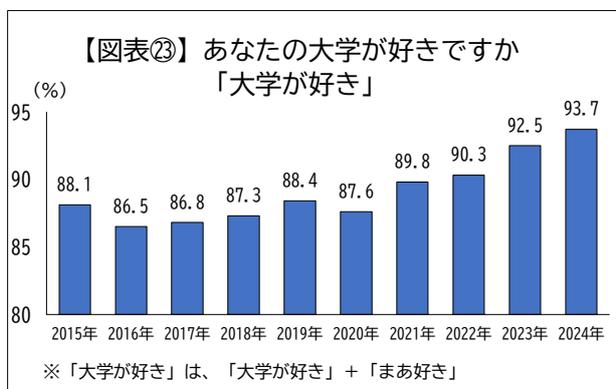
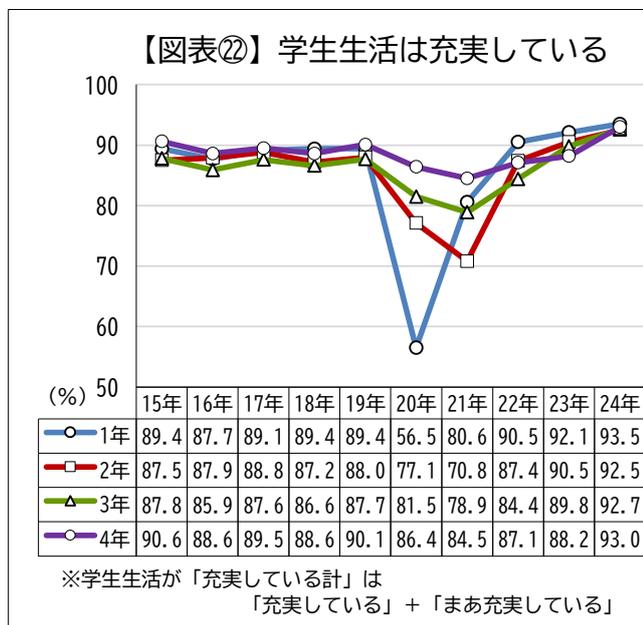


A) 「1 週間の登校日数 5 日」は 43.4%(19 年 51.3%)、平均日数は 4.1 日(19 年 4.4 日)であり、登校日数は完全には戻っていない。

B) 「1 日のキャンパス滞在時間増減率」も「7 時間以上」は 19 年に比べ減少した状態が固定化している。

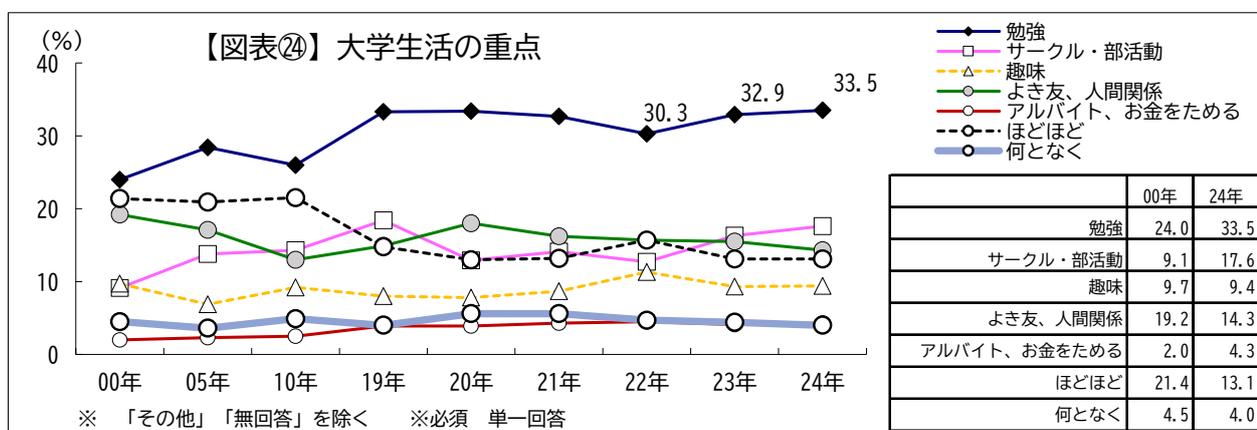
(2) 学生生活の充実度と「大学が好き」(図表②③)

学生生活の充実度は過去最高を更新



- A) 学生生活が「充実している計」は 93.0%と前年から 2.8 ポイント増加し、過去最高を更新した。
- B) 1 年生～4 年生の全学年で、「充実している」計の率が 90%を超過し過去最高だった。
- C) 「大学が好き」は 93.7%と増加が続いている。

(3) 大学生生活の重点(図表④)

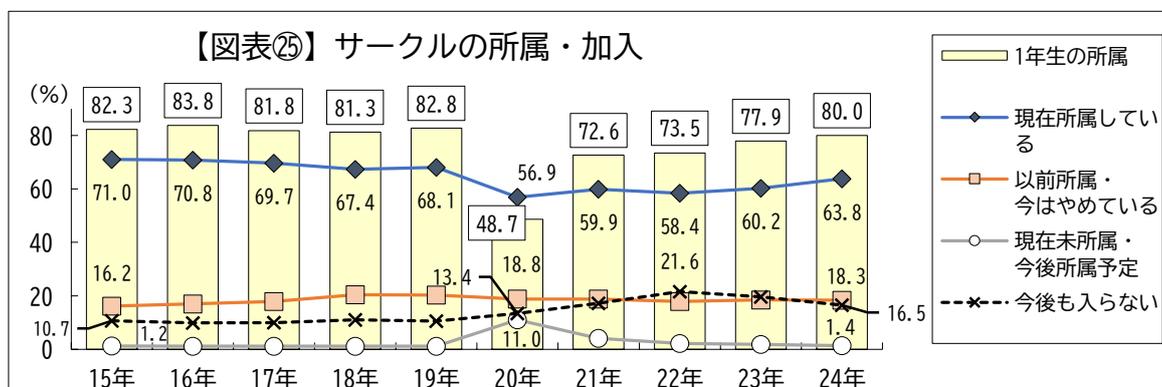


- A) 「大学生生活で現在最も重点をおいていること」は、「勉学や研究」前年+0.6 ポイントで 33.5%。次いで「サークル・部活動」が前年+1.3 ポイントで 17.6%。「よき友、豊かな人間関係」14.3%、「ほとほとに組み合わせた生活」13.1%と続く。
- B) 大学生生活の重点は、コロナ禍の前後で変化が見られる。学生にとっての「充実」の内容や質が変化しているのではないかと。

 - 課外活動の解禁を受けて「サークル・部活動」が 22 年から継続的に増え、23 年から 2 位になり、24 年は 3 位の「よき友、豊かな人間関係」との差がさらに開いた。
 - コロナ禍の 20 年～22 年は増加傾向にあった「趣味」が微減傾向となっている。
 - 00 年からの長期的傾向を見ると、「ほとほとに組み合わせた生活」が低落傾向にあり、「勉強」が増加している。大学生生活の重点において、目的意識を明確にした学生が増えているといえる。

(4)サークルの所属状況(図表㉕)

1 年生サークル所属はコロナ禍前水準に戻ったが、全体はまだ届かない



A)サークル・部活動等への所属率は 63.8%(前年+3.6 ポイント・19 年▲4.3 ポイント)だった。

B) 1 年生は 80.0%(前年+2.1 ポイント)と増加し、コロナ禍前の水準に戻った。

(5)就職について(図表㉖)

就職について「不安を抱えている」大学生は 72.0%

【図表㉖】就職についてどんなことに不安を感じているか

	※複数回答										※就職予定で「不安を感じている」を100として					(%)			
	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	男性	女性	文系	理系	医歯薬	1年	2年	3年	4年
就職ができるか	58.0	58.9	61.3	61.5	61.7	73.1	70.1	65.1	60.3	61.3	63.4	64.4	63.0	65.8	46.9	69.9	68.3	73.7	21.1
希望の職種に就けるか	36.4	35.9	39.9	43.3	43.5	47.3	43.5	41.9	41.8	39.5	41.8	40.7	41.4	44.1	21.9	46.1	44.7	45.0	13.1
希望の会社に入れるか	19.1	19.1	25.8	26.8	28.4	32.1	31.3	28.2	30.7	29.8	32.9	29.6	30.8	30.9	23.6	29.9	32.6	41.2	10.2
就職先が安定しているか	19.1	20.7	27.6	28.4	29.1	33.0	28.8	27.1	27.3	27.0	25.3	29.6	28.4	28.3	18.0	31.6	30.4	25.8	16.0
自分が仕事を続けられるか	22.2	23.9	28.1	28.8	30.4	28.8	29.9	29.1	31.1	30.0	30.1	31.7	29.0	32.2	34.0	24.8	26.7	27.8	46.6
自分が何に向いているか	39.6	39.8	43.5	45.5	46.6	42.9	44.0	43.6	42.8	42.4	40.8	46.3	45.4	42.1	25.8	47.3	50.4	39.0	27.2
雰囲気合っているか			28.3	31.9	32.9	30.9	31.5	30.4	32.6	31.0	26.7	35.4	29.7	32.9	36.5	25.1	28.0	29.0	47.6
人間関係がよいか					35.7	37.7	36.0	38.0	35.0	31.2	40.0	34.4	33.6	41.0	28.6	33.3	33.4	50.2	
やりがいを感じることができるか					26.3	25.2	22.8	23.4	21.6	20.9	23.1	22.2	21.1	19.1	19.5	21.6	22.0	24.0	
その他	1.8	2.0	1.4	1.1	1.4	0.6	0.9	0.7	1.0	0.7	1.0	0.8	0.8	0.7	0.8	0.5	0.4	0.4	2.6
無回答	0.4	0.5	0.5	3.7	2.5	2.3	2.2	3.3	4.6	6.0	2.1	2.7	5.5	5.3	8.7	5.3	6.6	5.6	6.1

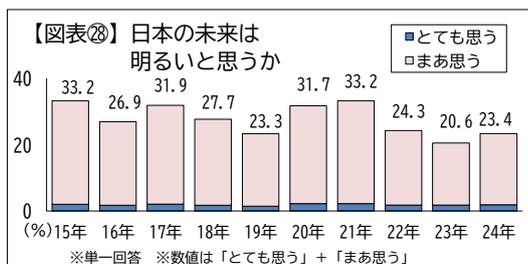
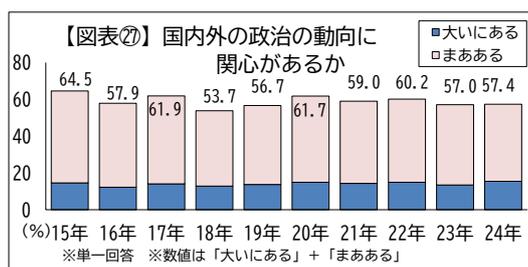
A) 就職に「不安を感じている計」は、72.0%で、前年+1.2 ポイント

※「不安を感じている計」は、「とても感じている」+「感じている」

B) そのうち就職予定者が就職に「不安を感じている」内容は、「就職ができるか」が 61.3%(2 年生 68.3%、3 年生 73.7%)で前年+1 ポイント、20 年の 73.1%をピークに減少傾向が続いている。次いで、「自分が何に向いているか」42.4%、「希望の職種に就けるか」39.5%となっている。

※就職予定で就職に「不安を感じている」を 100 として

(6)政治・社会への関心(図表⑳)



A) 国内外の政治の動向に関心が「ある」は 57.4%と前年より 0.4 ポイント増加した。

B) 関心が「ある」は、女性 53.1%に対して男性 61.3%。理工系 55.6%・医歯薬系 49.0%に対し、文科系が 61.3%と高い。※「関心がある」は、「大いにある」+「まあある」

C) 日本の未来は「明るいと思う」学生は 23.4% (前年 +2.8 ポイント)と微増した。※「日本の未来は明るいと思う」は、「とても思う」+「まあ思う」

D) 政治に「関心がある」の中で「明るいと思う」は 24.2%、「関心がない」の中で「明るいと思う」は 22.3%。(それぞれ「関心がある」「関心がない」を 100 として)

(7)SDGs について(図表㉓)

SDGsで関心のある項目は「質の高い教育をみんなに」がトップ

【図表㉓】SDGsで関心があるもの ベスト10 (%)

24年		男性		女性	
質の高い教育をみんなに	29.2	質の高い教育をみんなに	26.4	質の高い教育をみんなに	34.5
すべての人に健康と福祉を	24.9	働きがいも経済成長も	21.7	すべての人に健康と福祉を	32.3
住み続けられるまちづくりを	21.6	すべての人に健康と福祉を	20.1	ジェンダー平等を実現しよう	31.4
貧困をなくそう	21.2	住み続けられるまちづくりを	19.4	貧困をなくそう	25.8
ジェンダー平等を実現しよう	20.5	貧困をなくそう	18.6	住み続けられるまちづくりを	25.7
働きがいも経済成長も	20.4	海の豊かさを守ろう	17.9	平和と公平をすべての人に	24.9
平和と公平をすべての人に	19.8	エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	17.1	人や国の不平等をなくそう	23.6
人や国の不平等をなくそう	18.4	気候変動に具体的な対策を	17.0	働きがいも経済成長も	20.8
気候変動に具体的な対策を	17.7	産業や技術革新の基礎をつくろう	16.9	飢餓をゼロに	19.8
海の豊かさを守ろう	17.3	平和と公平をすべての人に	16.2	気候変動に具体的な対策を	19.5

A) 関心が高い目標は、上位から順に、「質の高い教育をみんなに」29.2%、「すべての人に健康と福祉を」24.9%、「住み続けられる街づくりを」21.6%となっている。

B) 男女で関心度に差があるもののうち、差が大きなものは「ジェンダー平等を実現しよう」女性 31.4%、男性 11.7%、「すべての人に健康と福祉を」女性 32.3%、男性 20.1%だった。

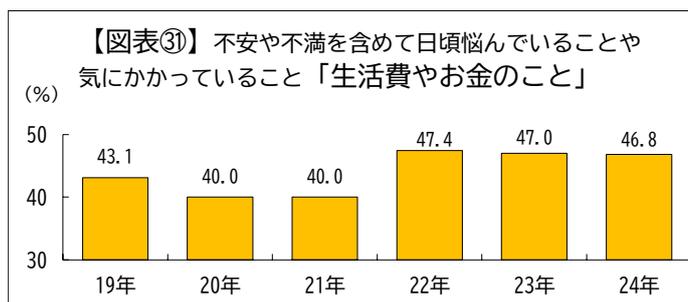
3.日常生活

(1)日常生活の中で悩んでいることや気にかかっていること(図表③④)

日常生活の中で悩んでいることや気にかかっていることは「生活費やお金のこと」が最多

【図表③】 日頃悩んでいることや気にかかっていること (不安や不満をふくめて) (%)

	19年	20年	21年	22年	23年	24年	自宅生	下宿生	寮生	文系	理系	医歯薬	1年	2年	3年	4年
生活費やお金のこと	43.1	40.0	40.0	47.4	47.0	46.8	37.2	55.6	56.4	45.2	49.5	44.7	49.0	48.5	43.4	45.2
授業・レポート等勉強上のこと	41.0	51.7	47.2	46.6	45.5	44.7	45.8	43.2	49.2	40.1	49.0	48.6	51.9	49.4	40.9	34.0
生きがいなどが見つからないこと	21.8	23.5	22.5	20.6	19.7	17.9	17.5	18.1	19.2	18.4	18.5	14.3	18.9	21.0	17.9	13.2
専攻分野や進路のこと	26.7	28.0	27.8	27.6	27.6	27.8	27.0	28.4	29.0	22.7	34.3	27.7	27.6	31.2	30.5	21.7
就職のこと	36.7	42.7	42.7	41.2	38.4	37.8	40.1	36.0	33.3	44.3	35.5	22.2	28.2	41.5	51.8	32.8
対人関係がうまくいかないこと	11.3	17.3	17.2	14.3	13.5	12.1	11.6	12.1	18.7	12.2	12.4	10.7	15.2	13.8	10.1	8.2
恋愛のこと	21.4	18.1	20.4	19.8	19.9	18.3	18.0	18.4	21.5	18.4	18.8	16.7	19.6	19.7	18.0	15.5
自分の性格や能力のこと	24.9	25.5	25.5	23.7	24.3	22.7	23.3	22.1	23.8	22.9	22.9	21.6	22.6	24.6	21.6	21.8
住居や生活の雑事	6.7	7.0	7.1	6.6	6.8	6.2	2.8	9.1	12.6	6.2	6.2	5.8	5.8	6.7	6.4	5.9
時間が足りないこと	26.5	24.5	26.9	27.8	27.0	26.1	27.2	24.8	28.7	24.6	27.6	27.0	26.8	26.2	26.9	24.3
アルバイトのこと	17.6	20.7	18.6	18.3	19.1	17.9	17.3	18.3	19.2	17.8	18.8	15.6	24.7	19.2	14.6	11.0
政治や社会の動き	5.2	6.8	6.1	6.9	6.1	6.3	6.0	6.5	8.2	6.9	6.6	3.8	6.1	5.9	6.7	6.9
サークル等の活動のこと	12.3	14.7	12.3	9.6	10.0	10.4	10.0	10.7	12.3	10.1	11.5	8.5	14.5	13.0	8.9	3.9
心身の不調・病気など健康のこと	9.4	10.7	11.0	10.8	10.9	10.4	9.3	11.2	14.6	10.5	10.2	10.8	9.0	10.3	11.4	11.4
家族のこと	7.1	8.3	8.5	6.3	6.5	5.8	6.1	5.2	8.7	6.0	5.3	6.3	5.5	5.6	5.5	6.6
その他	0.4	0.3	0.5	0.3	0.3	0.4	0.3	0.4	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.2	0.4
新型コロナウイルスに関わること		15.9	11.3	3.7	0.9											
特になし	10.3	7.6	7.9	7.0	7.4	7.5	7.9	7.3	3.6	7.5	7.0	8.3	7.7	5.6	5.2	11.3



A) 日常生活の中で悩んでいることや気にかかっていることは、「生活費やお金のこと」46.8%で最多。以下、「授業・レポート等勉強上のこと」44.7%、「就職のこと」37.8%と続く。

B) 「生活費やお金のこと」は、22年に顕著に増加し、この3年間はほぼ変わらない。物価高の影響と考えられる。

* 現在の学生たちの悩みや気がかりの特徴的なものを自由記入欄(巻末資料参照)に掲載した。

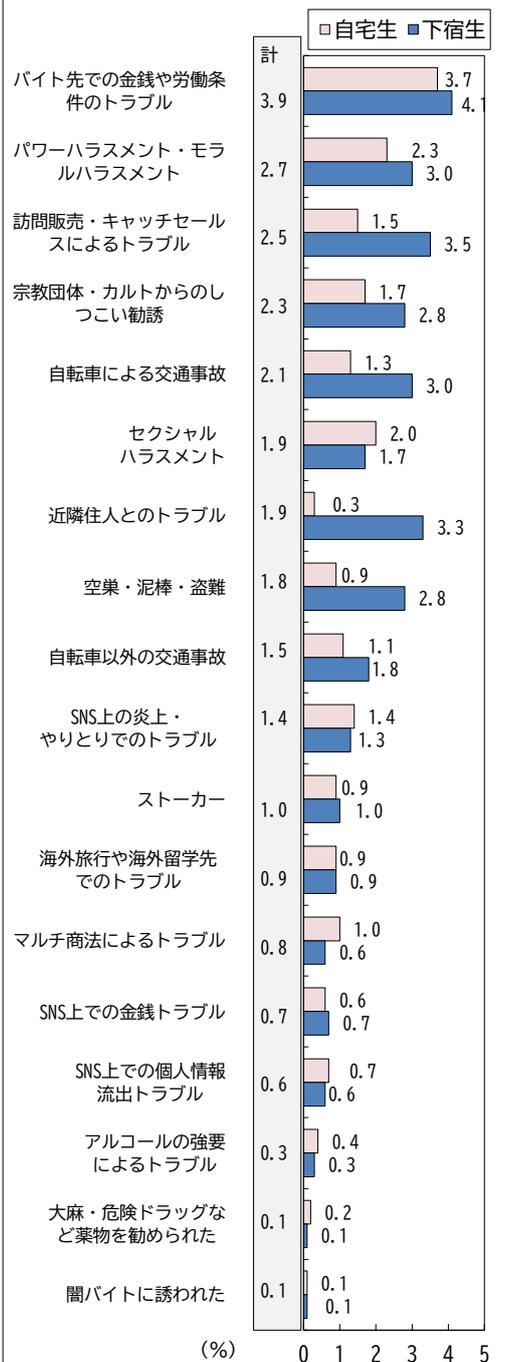
(2) 大学入学後のトラブル遭遇(図表⑳)

21.3%の学生が大学入学後に何らかのトラブルに遭遇したことが推定される

※この質問は実際に被害が発生したかではなく、被害はないがその可能性があった体験も含む。

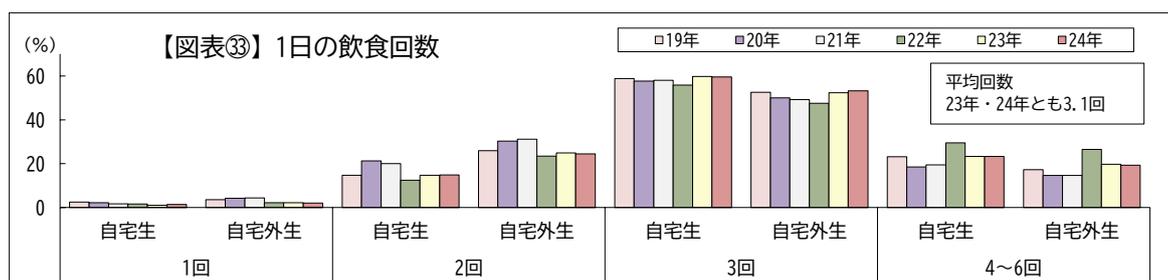
- A) 回答者数 11,590 人(30 大学生協)で、約 2,471 人の方が何らかのトラブルに遭遇している可能性がある。
- B) 「訪問販売・キャッチセールス」、「マルチ商法」「SNS 上での金銭トラブル」等の消費者トラブルに遭った学生は 11,590 人中の 449 人にも上る。
- C) 全体では「バイト先での金銭や労働条件のトラブル」が 3.9%で最多、次に「パワーハラスメント・モラルハラスメント」が 2.7%となっている。なお、「パワーハラスメント・モラルハラスメント」は女性 3.4%、男性 1.9%と女子学生に多い。

【図表㉔】 大学入学後に遭遇したトラブル



(3) 食事(図表㉔㉕)

1日の飲食回数は平均 3.1 回



A) 1日の飲食回数は、3回が56.3%(自宅生59.6%・下宿生53.2%)と前年より0.5ポイント増加した。

B) 食事の摂取率は、朝食68.9%(前年▲0.1・19年+1.3ポイント)、朝昼兼用食22.4%(同+0.3・+1.3ポイント)。朝食帯の摂取率はほぼ横ばい。

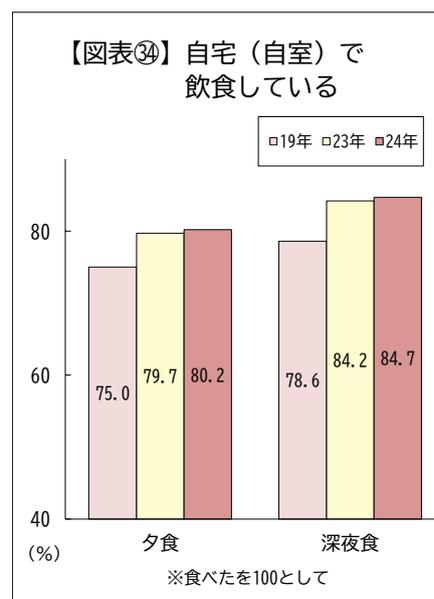
C) 朝食摂取率は自宅生77.2%(前年▲0.9ポイント)、自宅外生61.1%(前年▲0.1ポイント)と微減。

D) 1回の食事代は朝食・昼食は増加、夕食は横ばい。(有額平均)

- 朝食:23年226円→24年233円(19年209円)
- 昼食:23年495円→24年515円(19年477円)
- 夕食:23年658円→24年658円(19年763円)

E) コロナ禍(20年~22年)を除き19年と比較すると、

夕食・深夜食を自宅で摂る学生が増えている。コロナ禍での行動変容に加え、22年頃からの物価高の影響をうけて、夕食の支出を抑えるために外食をせず、自宅で夕食を摂るスタイルが定着してきていることが窺える。(図表⑳)



(4) 病気・事故(図表㉑)

病気、事故・けがによる入通院は微減

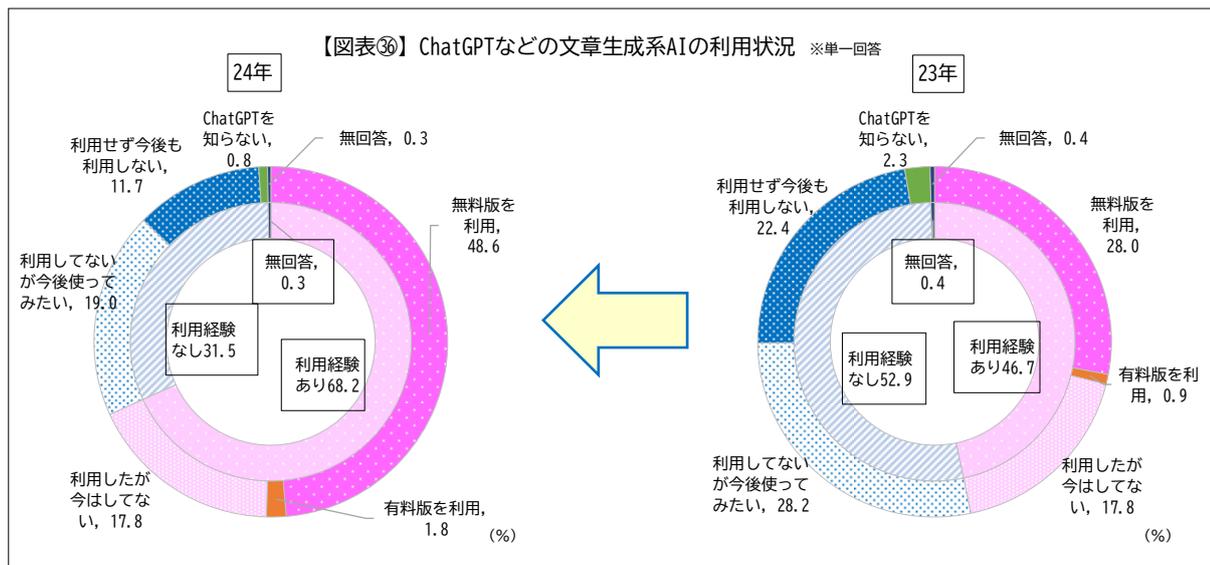
【図表㉑】この半年間の通院や入院

(%)

		21年	22年	23年	24年	自宅生	下宿生	寮生	男性	女性
病気による 入院や通院	した	10.9	16.3	18.7	16.9	14.8	19.1	16.4	15.4	18.8
	しなかった	89.1	83.7	81.3	83.1	85.2	80.9	83.6	84.6	81.2
事故・けがによる 入院や通院	した	4.8	6.0	6.1	5.5	4.5	6.3	7.9	6.3	4.6
	しなかった	95.2	94.0	93.9	94.5	95.5	93.7	92.1	93.7	95.4

※20年以前調査無し

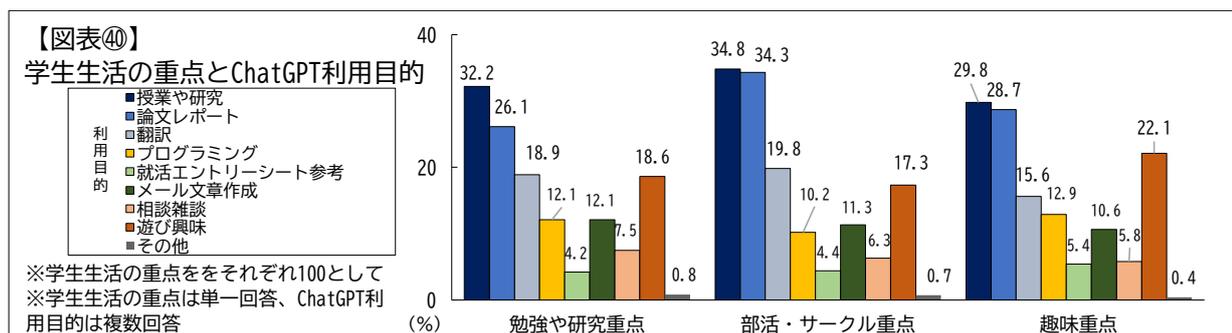
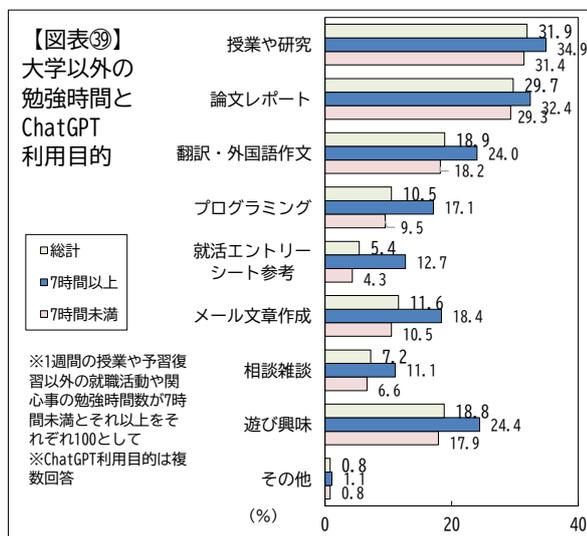
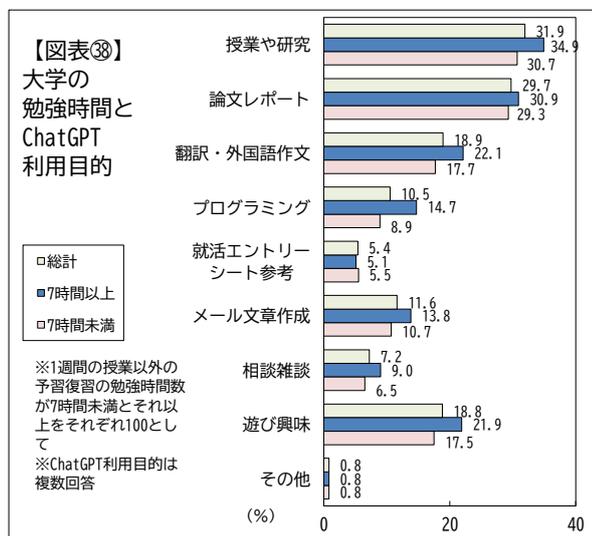
(5) ChatGPT などの文章生成系 AI の利用状況(図表⑳～㉔)



【図表㉔】 ChatGPTなどの文章生成系AIの利用目的 (複数回答) (%)

	23年	24年	自宅生	下宿生	寮生	男性	女性	文系	理系	医歯薬	1年	2年	3年	4年
授業や研究	31.9	30.4	33.2	34.4	38.5	27.4	25.9	41.0	27.9	28.8	35.2	35.0	29.1	
論文・レポートの作成の参考に	22.1	29.7	29.1	30.1	34.1	27.7	26.5	34.5	28.1	28.8	31.9	32.8	25.7	
翻訳・外国語作文	12.1	18.9	19.1	18.6	21.5	21.3	17.2	22.4	15.7	21.1	20.9	17.4	15.6	
コンピュータのプログラミング、エクセルの関数作成	7.9	10.5	10.3	10.6	12.6	15.5	4.1	20.6	5.1	6.7	10.8	12.7	12.8	
就職・インターンシップなどのエントリーシート作成の参考に	4.0	5.4	5.9	5.1	3.3	4.8	6.9	4.2	3.5	0.8	1.2	10.6	11.0	
メールなどの文章作成	6.3	11.6	11.9	11.1	12.8	12.4	10.2	13.7	10.3	7.8	10.9	13.9	14.6	
相談・雑談相手	11.0	7.2	7.5	6.6	11.3	6.4	8.7	7.2	7.5	6.3	6.8	7.1	7.4	
遊び・興味	18.8	18.7	18.7	20.3	22.8	15.5	17.5	21.2	16.4	19.9	18.9	17.7	18.2	
その他	3.8	0.8	0.8	0.8	0.5	0.9	0.8	0.9	0.8	0.8	0.7	0.9	0.8	
無回答	2.9	4.3	4.2	4.4	4.9	2.1	1.9	3.9	4.7	4.8	4.3	5.4	3.5	

*24年から「授業や研究」「遊び・興味」

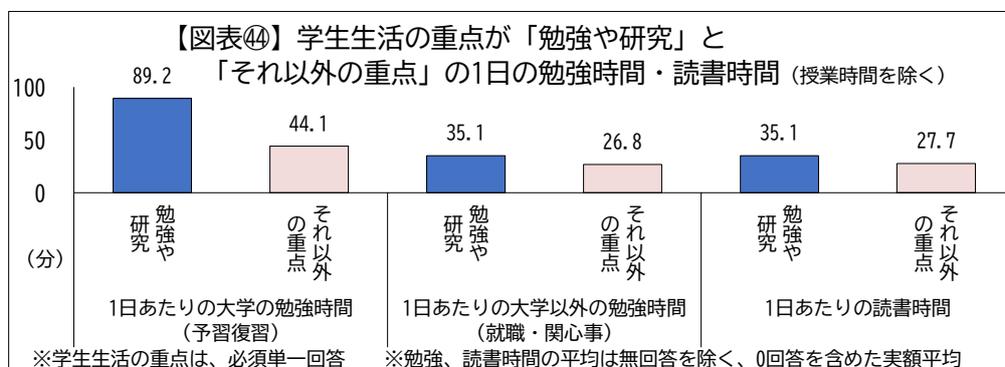
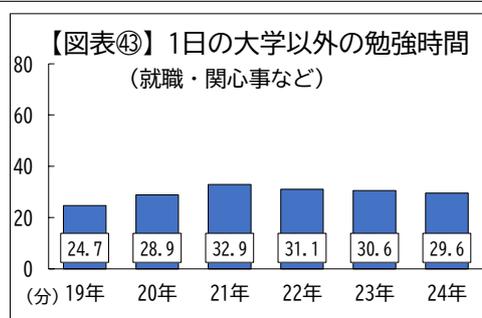
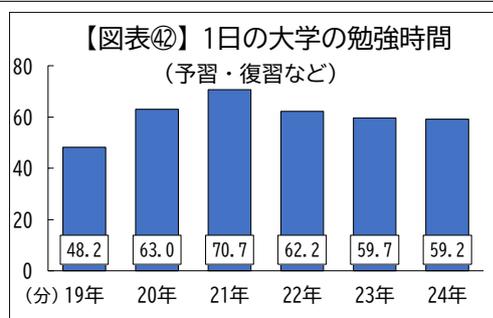
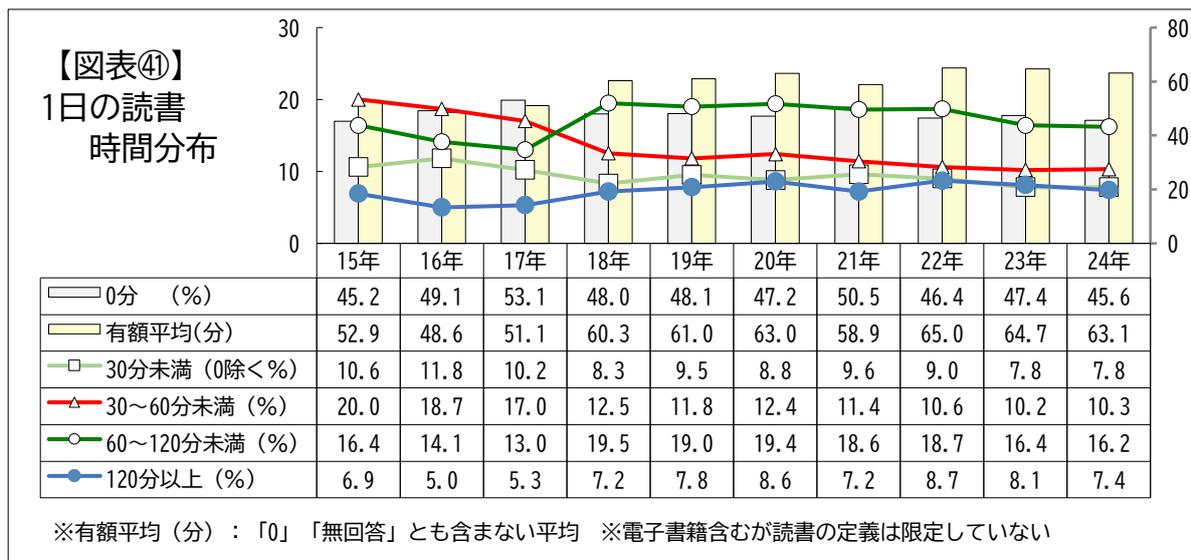


- A) 「利用経験あり」は 23 年 46.7%から、24 年 68.2%に大幅に増加した。専攻別にみると、理工系 77.1% (前年 54.9%)、文科系 62.8% (前年 43.2%)、医歯薬系 62.3% (前年 37.5%) だった。また性別で比較すると男性 74.3%、女性 61.7% だった。
- B) 利用目的では「授業や研究」「論文・レポート作成の参考」「翻訳・外国語作文」「遊び・興味」が上位だった。学年別でみると「メールなどの文章作成」「就職・インターンシップなどのエントリーシートの作成の参考に」「コンピュータのプログラミング、エクセルの関数作成」は上級生ほど利用目的に挙げる傾向がみられた。
- C) 利用目的を「1 週間の勉強時間数」の「7 時間以上」「7 時間未満」別に調べたところ、ほぼすべての利用目的で「7 時間以上」が「7 時間未満」を上回った。この結果は、利用目的にかかわらず授業時間以外の勉強時間(予習・復習、就職・関心事)が長いほど生成系 AI を利用していることを示唆している。特に顕著な差があるのは「大学以外の勉強時間(就職や関心事など)」で、「就活エントリーシート参考」7 時間以上 12.7%、7 時間未満 4.3%、「プログラミング」7 時間以上 17.1%、7 時間未満 9.5% など(大学または大学以外の 1 週間の勉強時間「7 時間以上」「7 時間未満」をそれぞれ 100 として)。
- D) 利用目的を学生生活の重点「勉強や研究」「部活・サークル」「趣味」別に調べたところ、いずれの学生生活の重点でも利用目的に「授業や研究」を 3 人に一人があげている。しかし、「論文・レポート」利用目的は「部活・サークル」重点が 34.3% (「趣味」重点が 28.7%、「勉強や研究」重点が 26.1%)、「遊び・興味」利用目的は「趣味」重点が 22.1% (「勉強や研究」重点が 18.6%、「部活・サークル」重点が 17.3%) となっており、学生生活の重点によって利用目的に差がある(学生生活の重点をそれぞれ 100 として)。
- E) 自由記述欄「AI を利用した感想や今後何に利用したいか」の傾向を分析したところ、肯定的な意見としては、生成系 AI を使うことでスキル向上や効率化が図れ、活用範囲が広いことが挙げられた。一方、否定的な意見では、不自然な日本語、画一的な表現が問題視されている。また、AI に頼りすぎると思考力低下や創造性の制約を招く恐れがあるとの懸念も指摘されている。数学や専門的な分野での不備、誤情報、著作権等の法的・倫理的な懸念もあり、AI の回答をそのまま信じず、自分で確認する重要性が指摘されている。ユニークな使用方法には、運転免許試験の練習問題作成、旅行プランのサポート、自作ゲームの条件計算、多言語文献検索の補助、日本語のダジャレ作成、小説の書き出しやアイデア出し、自分が企画運営するイベントのアイデア出しなどがあつた。

<自由記述欄「AI を利用した感想や今後何に利用したいか」>

- 様々な視点で答えてくれるのでとても面白いと感じた。指導案の作成等の際に、様々な状況を設定し、どう思考するかを考える案として使用したいと考えている。(国公立・文科系・3 年・女性・自宅外)
- 文章としての体は成しているが、専門的な内容への回答の大部分がハルシネーションによって構成されておりそのような方向ではまだ役に立たないと感じた。一方で、Python などのプログラミングに関しては誤りもあるがある程度コードを作れると感じた。(国公立・理工系・4 年以上・男性・自宅)
- 客観的な意見を提供してくれるので、完成した論文の添削程度なら活用できるが、課題を一からやらせようとするのは研究倫理に反すると感じた。(国公立・文科系・3 年・女性・自宅外)
- すぐに具体的な回答が得られて便利だと思った。ただ、回答内容に時々おかしい部分が含まれているので、本やインターネットの記事と合わせて参照し、生活する上でのヒントにしようと思った。(私立・理工系・2 年・男性・自宅)
- 研究で分からないことがあつた際に、解決の糸口を掴むとしては有用な手段だと感じた。一方、英文法のミスの検出に用いたときは単純な見落とし・誤った修正が多いと感じた。(国公立・医歯薬系・4 年・男性・自宅)

(6)読書時間・勉強時間(図表④①～④④)



A) 読書時間

- 1日の読書時間「0分」(図表④①棒グラフ部分)は45.6%。
- 1日の読書時間は、読む人で63.1分と5年前、10年前の水準に対して増加している。
- 全体の平均読書時間(0を含む)30.2分も、18年以降30分前後であり変化はない。
- 1日の読書時間分布は「60～120分未満」が16.2%、次に「30～60分未満」が10.3%だった。

B) 1日の大学の勉強時間

- 1日の予習・復習などの勉強時間(大学の勉強時間)は59.2分で、授業で課題が多かった20年～22年より減少しているが、オンライン授業が始まる前の19年よりも増加した。
- 1日の就職・関心事などの勉強時間(大学以外の勉強時間)は29.6分だった。

- C) 「勉強や研究」を学生生活の重点にしている人は、授業時間以外に「1日あたりの大学での勉強時間(予習・復習)」89.2分、「1日あたりの大学以外の勉強時間(就職・関心事)」35.1分、「1日あたりの読書時間」35.1分であり、「勉強や研究」以外に学生生活の重点を置いている人に比べて長かった。

「AI を利用した感想や今後何に利用したいか」について ～自由記述より（抜粋）～

1. 肯定的なコメント

<授業等での活用>

- 様々な視点で答えてくれるのでとても面白いと感じた。指導案の作成等の際に、様々な状況を設定し、どう思考するかを考える案として使用したいと考えている。(国公立・文科系・3年・女性・自宅外)

<文章の添削>

- 文章の添削や要約、アイデアを言語化するのに利用したい。(私立・文科系・4年以上・女性・自宅)
- メールを企業に送る際、敬語が正しいかをチェックしてもらうこと。(国公立・理工系・3年・女性・自宅)

<言語学習や基礎学習のサポート>

- 初習言語を学ぶ際に例文を打ち込み、文中のすべての単語・文法を解説してもらう方法が有効だったので、そういった初めて勉強する分野でのスタートダッシュをサポートする道具として利用していきたい。(国公立・理工系・2年・男性・自宅外)
- 数学の問題で分からないところを聞くと考え方のサポートになって便利だった。(国公立・文科系・2年・女性・自宅外)

<レポート作成のヒントとしての利用>

- 普段は、レポートを作成する際のヒントとして活用している。生成された文章を骨組みにしたり、抜粋したりしながら、自分のレポートに昇華している。(国公立・文科系・4年以上・男性・自宅)

<ネット情報のまとめ機能の利便性>

- ネットの中にたくさんある情報をまとめて教えてくれるので便利だと感じた。いろいろなことを聞くと丁寧に答えてくれるので面白かった。(国公立・文科系・4年以上・女性・自宅外)

<速さ・効率性の評価>

- 少し間違いを出すこともあるけれど、それ以上に早くこちらが欲しいものを提供してくれるので、とても便利なツールだと思った。(国公立・理工系・2年・男性・自宅外)

2. 否定的なコメント

<情報の信頼性への懸念>

- まだまだ、信用に足る情報だけではなく、出どころが不明な情報も多く含まれていたため、あくまで参考程度に活用し、情報源については細心の注意を払うべきだと思いました。(私立・文科系・2年・女性・自宅)
- 文章としての体は成しているが、専門的な内容への回答の大部分がハルシネーションによって構成されておりそのような方向ではまだ役に立たないと感じた。一方で、Python などのプログラミングに関しては誤りもあるがある程度コードを作れると感じた。(国公立・理工系・4年以上・男性・自宅)

<不自然な日本語・画一的な表現>

- 確かに便利ではあるが、それをそのまま使うと不自然だし主旨に合わないこともあるので自分で校閲する必要がある。(国公立・医歯薬系・1年・女性・自宅外)

<法的・倫理的な懸念>

- 客観的な意見を提供してくれるので、完成した論文の添削程度なら活用できるが、課題を一からやらせようとするのは研究倫理に反すると感じた。(国公立・文科系・3年・女性・自宅外)

<AI 依存への危機感・思考力低下の懸念>

- 便利だが、AI 頼みになると思考力が確実に衰えるだろうからあまり利用したくはない。(国公立・文科系・4 年以上・男性・自宅)

<不安や恐怖感>

- 便利だが怖いと感じた。(私立・文科系・3 年・女性・自宅)

<誤情報・虚偽の出力>

- 出典元が出てこないのに、安易にレポートなどで利用すると正しくないことが書かれるかもしれないと感じた。(国公立・文科系・2 年・男性・自宅)

3. ユニークな使用法

<絵の生成・クリエイティブな遊び>

- 絵を生成して遊んでいます。かなり細かく設定できるので、想像していた以上に楽しくクリエイティブな作品が作れる。(私立・理工系・1 年・男性・自宅外)

<複数人格での討論シミュレーションや自分に似た疑似人格の生成>

- 人物を複数設定して AI 内で討論させ、各自の主張を引き出す試みをしています。ブレインストーミングの一環として活用している。(国公立・理工系・1 年・男性・自宅外)
- 自分の日記を読ませて、自分に似た文章を生成する AI を育てることに利用したい。(私立・文科系・1 年・男性・自宅)

<占いやエンターテインメント用途>

- 占いなどができて楽しい。(私立・文科系・4 年以上・女性・自宅)

<日常生活で役立つコツやアドバイス>

- ~のコツ、といったその人の主観が入りそうな内容にも答えを出してくれるので面白いと思いました。(私立・医歯薬系・4 年以上・女性・自宅外)
- 最近は冷蔵庫の中身を教えてどの料理が作れるかを聞いたりしており、便利なので今後も続けていきたい。(私立・文科系・1 年・女性・自宅外)
- 具合悪い時に症状を入れると深刻なものかどうか判断する手がかりになって便利(国公立・文科系・1 年・女性・自宅外)

*このほか、運転免許試験の問題作成、旅行プランの提示、エクササイズ方法の提案、大喜利やダジャレのネタ、小説やゲーム作成、企画・イベントのアイデア出しなど多様な使い方があった。

<大学に進学してよかった>

- 大学は全国各地から人が集まる場所で、高校生のときよりさらに広い交友関係を築くことができたことが良かった。自分が知らなかった世界のこともたくさん知ることができた。(私立・医歯薬系・4年以上・女性・自宅外)
- 入学してから価値観が変わり、人生が鮮やかになりました。(国公立・文科系・3年・男性・自宅)
- 今まで縁もゆかりもなかった土地で、ここでしかできない体験や出会いができたことがとてもよかった。(国公立・文科系・4年以上・男性・自宅外)
- 色々な人と学んだり交流したりすることが出来て人間の面白さを実感出来ているので入学して良かったなと思います。(国公立・文科系・3年・女性・自宅外)
- 個性的かつ協調性のあるたくさんの学生に出会えたことが、大学に入学してよかったことの1つです。自分にはない知識や経験を持つ人が多く、そういった人達と共に考え、学ぶことができ、本当に楽しい大学生活だと感じています。また、先生方も丁寧に親身になってくださる方が多く、特にゼミの先生には大変お世話になり、感謝しています。もともと第一志望の大学だったということもありますが、本学に入学できて本当によかったと思っています。(国公立・文科系・4年以上・女性・自宅)
- よかったこととして、大学に入学し一人暮らしを経験できたことで、自立した生活をするために家事や自炊をするようになりました。今までは両親に頼っていた部分が大きかったため、その大変さを知ることができ、両親に今まで以上に感謝の気持ちをもつようになりました。(国公立・医歯薬系・2年・女性・自宅外)
- 大学に入ってから知った社会の常識も多いので勉強以外にも学ぶことがあり入って良かったと思いました。(国公立・文科系・3年・女性・自宅外)
- 色々な背景を持つ人に出会えたことが最も良かったことの1つです。大学に行くと、その中でもいろいろな背景を持つ人と出会えます。経済面で苦労しながらも勉学に励んでいる人、家が比較的裕福であってさまざまな経験を経てきた人、特別豊かでも貧しくもなく平均的な生活を送ってきた人。もちろん、大学の外にはもっと多様な背景の人はいます。しかし、高校以前と比べると、関わる人はいっそう多様化しています。社会に出る前に、色々な価値観と触れ合っておける最後の機会だと思います。この半年間の大学生活ですでにそれを実感できているので、とても有意義だと感じています。(私立・文科系・1年・男性・自宅)
- とても忙しく充実した生活ができていること。しかし充実しすぎていて逆に時間が足りなくなっていること。(私立・理工系・1年・男性・自宅外)
- 大学に入学してから、大学から斡旋される活動に参加したり、専門科目だけでなく、自分の興味のある授業を色々取ってみたりと、様々な経験を積み、学びを深められたことを考えると、心から大学に入学して良かったなと思います。また、地元から離れた大学へ進学したことで、地元では知り得なかった世界を見られたことも良かったと感じます。(国公立・理工系・4年以上・女性・自宅外)
- 大学にいる間は自分の時間が持ちやすいことが良い点だと思いますが、意思を持って活動しないと無為に時間が過ぎていくので難しいと思います。また、高校までと違い、大学では自身の行動は全て自己責任になるため、トラブルに巻き込まれることがないよう、細心の注意を払っています。そこは精神的に消耗する点です。(国公立・理工系・4年以上・男性・自宅外)
- 第一希望ではなかった大学ですが、3年生にもなるとそんなことすらすっかり忘れていて充実した毎日を送ることが出来ています。勉強したいだけ勉強できる環境があるので入学して良かったと感じています。(国公立・文科系・3年・女性・自宅外)
- 自分の今後につながる勉強の機会を得られて本当に良かったと思います。また、生活するのにこんなにお金がかかるとは知らなかったのも、親元を離れて暮らすことで、親への感謝の気持ちを持てるようになりました。(国公立・理工系・2年・女性・自宅外)
- 自分の知らなかったことが、自分の行動次第でどんどん学ぶことができるという点で大学に入学して良かったと感じている。また、同じような興味や目標を持つ友人や、その反対に自分と異なる考えを持った様々な人に出会うことができたという点も良かったと感じていることのひとつだ。(国公立・文科系・3年・女性・自宅)
- 親元から離れて1人で暮らす経験ができて、自分で決めて生活していくということはとても大変であり大切な機会になりました。学びたいことは難しすぎて大学の壁にぶち当たり苦しんだことも多かったです。大学生だからできたことが多かったと感じています。1人だったからこそ、相談相手ができず苦しんだこともありましたし、どうやったら仲の良い友達ができるのか悩んだことも多かったです。なるようになるというのをまなんだように思います。(国公立・理工系・2年・女性・自宅外)

立・文科系・4年以上・女性・自宅外)

- 自分がやりたいことのために、自分から行動できるようになった。(国公立・文科系・2年・女性・自宅外)
- 世界中の友達と関係を持てたこと！そしてその子たちの家に訪れていろいろ紹介してもらえたこと！！現在ドイツに留学できていること！（私立・文科系・3年・男性・自宅外）

<学びについて>

- 自分が学びたい分野の知識を深めることができ良かったですし、就職後も大学で学んだことを活かして働きたいと思います。(国公立・医歯薬系・4年以上・女性・自宅外)
- 学問的な成長のみならず、教員や学生どうし関わりを通して精神的な成長や、人間的な成熟が進んだと感じる。また、専門職としての役割や、振る舞いを身につけるスタートラインに立つことができたと思う。(国公立・文科系・4年以上・女性・自宅外)
- 知らなかったことを学び、凝り固まっていた主観をほぐすことができ良い機会となっている。(国公立・文科系・1年・男性・自宅外)
- 専門的な分野の学習だけでなく、空いた時間に資格や興味のある勉強が自由にできるため大学に入学してよかったと思います。(国公立・文科系・3年・女性・自宅外)
- 大学に入ると、授業を受けながらも自由な学びを拡張していけることは大きな魅力であり、とても良かったことだと思う。ただ、多くの大学生が学びたいものを学び続けるために必要な書籍を購入できるだけの金銭的な余裕がなかったり、拡張した結果、学びに向かう困難さが一定程度あることは少し難しい部分だとは思う。率直に言えば、図書館で借りてもいいけど、買っておきたい本が高くて買えないのは、書籍の購入助成などサポートがあってもいいのかなと思う部分がある。大きな悩みはないが、進路にまつわる問題は、結局個人に委ねられていることもあって、あまり考えきれていないのが正直なところであり、現実的な進路の話題(選考状況や試験対策)だけではなく、広くキャリアプランについて考え、学生同士で話し合える機会があると面白いと思う。(私立・文科系・3年・男性・自宅)
- 様々なことが学べて、自分の成長に生かされていると感じました。今は研究のことと就職のことを半分考えながらアルバイトをずっと続け、そして授業の単位取得も考えなければいけなくて、かなり忙しいです。どれを優先すべきかしっかり判断していく必要があるなど感じました。(私立・理工系・3年・男性・自宅)
- 大学には多くの学生がいるので様々な意見を聞く事ができ勉強になるところが大学の利点だと思います。moodle上での授業の場合だと受講生全員の意見を見る事ができるので課題や感想を提出する度に新しい発見があって面白いです。(国公立・文科系・2年・女性・自宅外)
- 新しい人脈が増えた。専門分野に特化した講義を受けることができ、豊富な知識を持った教授に指導をして頂けた。専攻分野だけでなく基幹教育などを通して様々な分野の知識が増えた。(国公立・医歯薬系・4年以上・女性・自宅)
- 英語の授業などディスカッションの授業が難しい。学生同士で温度差がある。(国公立・理工系・2年・女性・自宅)
- Wordやパワポ、Excelを始めとしたPCの扱いは初めは苦戦しました。(私立・文科系・1年・男性・自宅外)
- 授業の宿題やテストが多く、毎日大変な日々を送っている。授業だけでなくサークルやボランティア活動などにも全力で取り組めるよう大学側も応援してほしい。(私立・理工系・2年・男性・自宅)
- 春に入学して早々の履修登録の仕方や要領について悩んだことがある。大学側からの対応としてはかなり放任主義的であると感じる。同時期のサークルの新歓にて先輩に相談やアドバイスを受けて最終的に対処した。大学構内でのWi-Fiの効きが基本よくない印象を受ける。日頃から接続が悪いと感じる中、特に教室内にて講義を受けている最中にも関わらずパソコンのWi-Fi接続が複数回切れることがあり違和感を感じる。(私立・文科系・1年・男性・自宅外)
- 様々な分野が学べて良かった。留学生と交流する場があって良い経験になっている。一人暮らしに慣れることに苦労した。メンタルヘルスの問題に悩んだ。相談できる場が大学にあって助かった。(国公立・理工系・2年・女性・自宅外)
- 福祉について学び、障害について差別をしなくなりました。今まで綺麗事だと感じていたことを根拠を持って考えることができ、福祉を学ぶだけで社会を違う目で見ることができていると感じています。(私立・文科系・3年・女性・自宅)
- 大学に入学してよかったことは専門的な知識を深く学べる環境や、多様な考えを持つ友人や教授との出会いです。新しい視点や知識を得られることが非常に刺激的です。一方で困ったこととしては授業や課題の量に圧倒されることや、自己管理が難しい点があります。特に時間の使い方や進路について悩むこともあり、時折不安を感じることもあります。(国公立・文科系・2年・男性・自宅)

<部活・サークルについて>

- 面白いサークル活動がたくさんあり、楽しいと思う。(国公立・文科系・3年・女性・自宅外)
- サークル活動がとても楽しく、サークルでできた仲間との関係も良好で卒業後も付き合っていきたいと思える存在がたくさんいます。(国公立・理工系・4年以上・女性・自宅外)
- 学部が同じ友人や、サークルに参加することによって他学部の友人もできました。そのおかげで、サークル外でも一緒にごはんを食べ、より充実した学生生活が送れています。(私立・文科系・3年・女性・自宅)
- サークルを通して同じ趣味の仲間と出会い、様々なことをともに経験したことで、他の何にも変えられない価値のある時間を過ごせた。(国公立・理工系・4年以上・男性・自宅外)
- サークルや部活に参加して他の学部と交流できたり、特に学生など学業以外も充実して過ごすことができている。大学からワークショップなどの案内もあるので経験も積める。(国公立・理工系・3年・女性・自宅外)
- 大学が学生のサークル参加率を宣伝していたり、友人間でもサークルに入っていることを前提に話をしていたりして、加入していない身としては少し肩身が狭い思いをすることもあります。(私立・理工系・1年・性別無回答・自宅)
- 実家暮らしは、コミュニティを広げるのが難しい。終電も早く、みんなに合わせて遅くまで遊ぶのもなかなかできなく、寂しい時もあった。サークルも1年次はオンライン授業が多かったため、ほとんど地元でアルバイトなどして、交通費を浮かせるために、極力大学に行かないようにしていたが、サークルに1年次から所属していたら、もっと疎外感を感じずに、サークル活動に参加できていたように思う。今となっては、地元の友人と気軽に遊べて、家族が身近にいる実家暮らしもありがたいが、大学入学当初はかなり思い悩むことが多かった。(国公立・文科系・4年以上・女性・自宅)
- スポーツ系のサークルに所属したが、あまりスポーツをせず飲みサーだったことに困惑した。きちんとスポーツをするサークルを知りたかった。大学に入ると交友関係が広がると思ったが自分から行動しないとあまり広がらず、もう少し警戒を薄めている人々と交流すればよかったと感じている。仲の良い友人はいるが狭く深くなるので、浅く広く友人を増やすべきであったか悩みどころである。(私立・文科系・4年以上・女性・自宅)

<友人・仲間について>

- 支えてくれる人に出会えたことがすごく良かったことだと思う。一人暮らしを始めて困ったことや辛いことがあると助けてくれる人や一緒に考えてくれる人話を聞いてくれる人に支えられ乗り越えることが出来た。このような人達に出会えたのは一生の思い出だと思う。(国公立・文科系・4年以上・女性・自宅外)
- 自分が興味を持っているものを共有できる友達ができ、興味を深掘りできる場所があってよかった。(国公立・理工系・1年・女性・自宅外)
- 仲間に恵まれている、総じて楽しい。(国公立・理工系・3年・男性・自宅)
- 大学に入ってから、友人が多くでき、語学やイベントの企画・運営などに取り組みました。周囲の人から良い刺激を受けながら、自身の成長に繋がる経験を多くしました。(国公立・文科系・4年以上・男性・自宅)
- 私の興味のある研究分野に興味を持ってくれる仲間が多いことは、純粋に勉強していて楽しくなるため、入学して良かったと感じている。(国公立・文科系・3年・女性・自宅)
- 大学に入学して色々な価値観を持つ友達そして助け合える仲間に出会えたことが良かった。授業は大変だし辛いことも多いけどみんなと協力して物事を進めていくのがとても面白く感じている。だが、やはり対立することがありそれはとても困ることがある。(私立・医歯薬系・1年・女性・自宅)
- 心から信頼できて、尊敬できる素敵な友達に出会えて一緒に活動ができていること。大学で出会う友達は狭く深くの関係を構築し、これから先の人生でもお互いを思いやっていきたいと思える友人に出会えて本当に良かったです。大変な時期もありましたが、支えてくれる友人と家族に感謝です。(私立・文科系・2年・女性・自宅)
- 自分で授業時間を管理できるので高校の時より自由な時間が増え、睡眠時間と趣味に没頭する時間を十分に確保できるようになって嬉しかったです。ですが、話題の合う友人があまりおらず、サークルや部活動は気にはなっていますが今更すぎてしり込みしてしまい、友人と言える存在がほとんど居ないことが悩みです。(国公立・文科系・2年・女性・自宅外)
- 友達が自分から動かないと作れないので、困った。困った時にどこに相談すればいいか分からなかったのも、もう少し情報を広げてほしい。(私立・文科系・3年・男性・自宅)

<不安や悩み・困ったこと>

- 大学に入って、自由に使える時間が格段に増えたこと、時間を使うのに取れる選択肢がより多く見えるようになったことがよかったです。ただ、交友関係の形成にはかなり苦労しました。特にカリキュラムが厳しい学部(コース)では勉強時間の確保のため、部活やアルバイトなど他の学生と交流する機会を切り捨ててしまいがちです。この選択をすると出会いや日常会話の機会が全くといっていいほどなくなり、社会的に孤立します。このような状態だと精神的によろしくないのはもちろんですが、この構造自体が周囲に共有されません。本当に困っている人というのは、外側からはわかりません。(国公立・理工系・3年・男性・自宅外)
- 自分のやりたいことが勉強できるのがとても嬉しい。ただ、同じ学部の中で人間関係が複雑になっており、狭い世界のため、授業グループを作ったり、そもそも授業を受けるときに気まづくなってしまうのが辛い。ただ自分のやりたいことがすぐ側にあるので、心の支えになっている。相談できる相手も近くにいるので、私は嬉しい。他にも学校で相談できる公共的な場所が設置されているのも良いと思う。ただ、他にもほんとに悩んでいる人がいたり、なかなか声が出しづらいなどあると思うので、一人一人が充実した大学生活を行えるように、ここに意見を残したい。(国公立・文科系・2年・女性・自宅外)
- 授業、実習に追われる毎日で、時々前に進むのが嫌になります。他の大学生と好きな時間を共有した後、自分の選択が間違いに思えて、しんどくなったり、でも学校の日常に戻れば忙しい日々が当たり前で充実して過ごせる仲間とも楽しい時間を共有しています。就職して仕事に慣れた頃、自分の選択に誇りが持てると思い、とにかく今はやるしかないです！(国公立・医歯薬系・3年・女性・自宅)
- 大学進学に伴い一人暮らしとなったので、家族がやってくれていたことも全て自分でやらなければならない(食事の用意や家全体の掃除など)ことへの対応が最初特に困った・悩んだ。(国公立・医歯薬系・4年以上・女性・自宅外)
- 3年生になってから突如はじまる就職活動に疑念をもっています。昨今騒がれる就職活動早期化のあおりを受け、大学生の本分である勉学や研究にいまいち身を入れにくい状況を身をもって経験しています。自由に勉学に打ち込める時間を確保したいです。(国公立・文科系・3年・女性・自宅外)
- 将来の就職に向けてどういったことから始めていけばよいかかわからない。(私立・文科系・2年・男性・自宅)
- 友達の作り方が分からない。先輩と仲良くなる方法が分からず、過去問をもらって勉強することができず、テストが苦しい。バイトの仕方が分からない。(私立・文科系・1年・女性・自宅外)
- 最も困っていることは、時間や体力が足りないことだ。大学が人生の夏休みなわけがない。やるべきこともやりたいことも今しか出来ないことも多すぎる。(国公立・理工系・1年・男性・自宅)
- 大学に入学して困ったのは自分で考えて行動することです。何を専門に学びたいのか、4年間でどんなことに挑戦したいのかを自分で考えないといけません。友達や大人の言うことはとても大切ですが、最終的には自分の意思で行動していかないといけないので、1人で考える時間をとり、自分と向き合う時間が必要だととても感じます。(国公立・文科系・4年以上・男性・自宅外)
- 生活リズムが崩れ、夜遅くまで起きてしまったり一人暮らしで話し相手がいなくてスマホばかり見てしまうのが悩みです。(国公立・理工系・1年・女性・自宅外)
- 将来に漠然とした不安がある。自分が就職し、働いている姿が想像できない。1日単位でみると充実した日々を送っているが、年単位でみるとあまりそうは思わない。(国公立・理工系・3年・男性・自宅外)
- 何かしらコミュニティに属すると人間関係に常にお金(交際費)が必要になるのが煩雑に感じることもある。資格取得がやたら推奨されるのが就活に過度に目的意識を持たせるような感覚がして鬱陶しいことがある。(私立・文科系・2年・男性・自宅外)
- 災害時にどこに避難すれば良いかわからない。(国公立・文科系・2年・男性・自宅外)
- 病気や怪我をした時に、はじめての土地で病院が分からず、どの病院に行くべきか困った。(国公立・理工系・3年・女性・自宅外)
- 精神的に不安定になったとき、病院以外に頼れる場所があれば助かるなと思います。(国公立・理工系・4年以上・女性・自宅外)
- 入学した当初は自分がやりたいことをみつけられなかったり、友人ができなかったりと思うような学生生活を送ることができず、大学で学ぶ意味が見いだせなかった。だが、今までよりも自分について考える時間をより多く持ったことで入学以前の自分自身よりも今の自分のほうが好きになった。(国公立・文科系・4年以上・女性・自宅)
- 一人暮らしの節約術を考えることが大変。食費・光熱費を自分で負担しているため、それらを払わなくてよい実家通

学の人たちとの経済格差を感じる。学業面で言えば、予習・復習が多く、睡眠時間があまり確保できない。また、現在大学3年で就活を始めているが、インターンや説明会に出るために授業を欠席しなければいけない時があり、成績に響かないか不安に思っている。(国公立・文科系・4年以上・女性・自宅外)

<トラブル・ハラスメント遭遇>

- 入学したての頃に、知らない四年生から遊びに誘われて怖かった思い出があります。幸い友人ができていたため相談できましたが、そうでなければ誰に相談すればよかったのだろうと思うことがあります。(私立・文科系・3年・女性・自宅)
- 友人関係のトラブルや、部活活動でのトラブルに悩んだ時期があった。それらのトラブルと学生生活との両立が難しかった。(国公立・文科系・3年・男性・自宅外)
- 大学に入学して、NPO法人でインターンシップ事業をしていて参加しないかという誘いをよくうけるようになったが、それが怪しいものなのかそうでないのか分からなく、不安に思うことが多かったので、そういったことを知れる機会があるとうれしい。(国公立・文科系・1年・女性・自宅)
- バイト先で財布から現金四万を盗まれた。防犯カメラがなかったため犯人も見つからず、お金も戻ってこない。警察に届を出したり、バイト先の店長やマネージャーさんに報告はしたが、色々な人から貴重品の管理が甘いと怒られた。自分は被害者なのに、誰も自分を救済してくれないのだなと思って、とても辛かった。盗難被害に遭った人が泣き寝入りしなくてもよい制度を作って欲しい。(国公立・理工系・4年以上・女性・自宅外)
- 大学内にある生徒相談室に教授からのモラハラについて相談に行きましたが、正式に報告するにはたくさんの手続きを踏まなければならないと知り断念しました。もう少し気軽に通報できる、すぐに教授に改善してもらえる仕組みがあったらと思います。(国公立・文科系・2年・女性・自宅外)
- 教職員として適切でない行動を取る人々がいたり、教える立場としてハラスメントなどをしっかりと考えているのか不安になりました。(国公立・文科系・3年・女性・自宅外)
- よかったことはアルバイトで素晴らしい仲間に出会えたことです。ですが大学生活においては教授による男女によって態度を変えるところやセクハラのようなことを行う教授がいるため少し不快でいます。はっきり言って辛いです。(国公立・理工系・2年・男性・自宅外)
- 公でない宗教勧誘は学内で平然と行われています。なかにはしつこい人たちもいるので、圧をかけていただきたいです。(国公立・文科系・2年・男性・自宅)
- バイトで不当解雇されたこと。なんでも相談室を利用しようか迷ったが、友人たちに聞いたところ、よくあることだと言われたので泣く泣く諦めた。(国公立・文科系・1年・女性・自宅)

<経済状況・アルバイトについて>

- 大学では好きなことを勉強でき、アルバイトや部活動も充実しておりおおむね満足しています。私自身は親から生活費や家賃、学費の援助は受けつつ、レジャー代や被服・趣味に使うお金はアルバイトで工面するという生活をしており、このやり方で特にお金に困ったことはありません。ただ周りの人やSNSを見ていると、学費や生活費をすべて自分のアルバイトで工面している人もいれば、好きなように遊んで暮らせるだけのお小遣いを親から貰っている人もいます。そうした経済面による体験格差(旅行や留学など)や、サークルでの人付き合い(飲み会や旅行の頻度)には格差を日々感じており、もやもやとした気持ちを抱えることもあります。私自身はありがたいことに親からの援助を受けてバランスよく暮らせているとは思うものの、親のお金で豪遊している大学生を見ると内心苛立ってしまうこともあります。(国公立・文科系・4年以上・女性・自宅外)
- 高校までと比べると、サークル費や交際費などでの出費が圧倒的に増えたので、アルバイトをすることにしましたが、大学の授業や課題で忙しいため、アルバイトとの両立で悩みました。私の周りでも、大学生活を充実させるために、学習もサークルもバイトもがんばって、結果体調を崩したり、精神を病む人が多いです。時間もお金かどちらかだけでもゆとりをもった大学生活を送れるような制度が作られることを期待しています。(国公立・文科系・2年・女性・自宅)
- 物価高で一人暮らしだと生活が苦しい。(私立・文科系・3年・女性・自宅外)
- 最近アルバイト先の給料未払いで労働基準監督署に行った。趣味や交際費にお金を使い過ぎてしまうのが悩み。(国公立・文科系・3年・女性・自宅)
- 学費が高い。お金のことで不安がありすぎる。バイトをしてる暇があったら勉強したらどうだと言ってくる教授や友人

もいるが、バイトをしなければ学校へ行くための交通費や教科書代が得られないためそういったことを言われると非常に困る。バイトをしなくてもお金に不安を抱かず勉強が出来ることはとても贅沢な事だとわかって欲しい。(私立・医歯薬系・3年・女性・自宅)

- 学生生活通してお金がない。(私立・理工系・4年以上・男性・自宅)
- どうしてもお金を稼ぐ上限があるので壁を上げてほしい。(これをここに書いても意味はないのだが)(国公立・理工系・3年・男性・自宅)
- アルバイトをしてもお金が足りない。アルバイトを増やせば授業に身が入らないし、減らせばただ学校と家の往復だけになってしまいストレスが溜まる。(私立・理工系・4年以上・女性・自宅)
- 生活はできるが、あまり余裕はないので不安がある。来年から弟が大学生になり、仕送りに頼りたくない気持ちはあるが、アルバイトを増やすと学校の授業についていけないのでできない。(国公立・理工系・2年・女性・自宅外)
- 授業料含む、自分にかかるお金を全て自分で賄っているため、サークルなどに参加する時間が無い。バイトを扶養を超えてするしかなく、そうすると自分の時間が無くなる。緩くバイトをしている同級生を見ると嫉妬からイライラしてしまう。(国公立・文科系・3年・女性・自宅外)
- 勉強を優先したくてあまりバイトに時間がさけず、その結果食費を削ることが多かったので、栄養バランスに気がつかなかった食事がなかなかとれませんでした。(私立・医歯薬系・4年以上・女性・自宅外)
- 学費が高いので満足に生活できていません。年収をすべて学費に費やすことになるので生活が本当に厳しいです。(私立・文科系・4年以上・男性・自宅外)
- 物価上昇で買いたいものを諦めることが増えるようになってきているので、困っています。(国公立・文科系・4年以上・女性・自宅)
- 経済面での心配が大きいことが悩みです。理系になると授業が忙しいためアルバイトの数も減り、各学期の教材費、物価の高騰に困っています。(国公立・理工系・3年・女性・自宅外)
- 教科書代、交通費等が高く地味に出費がかさむ。奨学金をもらえなかったため、自分で働きながら返済する形が苦しい。物価が上がっているのにアルバイトの賃金が低い 103 万の壁も低い。(国公立・文科系・4年以上・女性・自宅)

<奨学金・学費減免について>

- 生活する為のバイト、将来に役立つ内容のバイトをしているが、時間が無くなる。借りる奨学金を使って生活しているが、将来返せるか不安だ。(国公立・文科系・1年・女性・自宅外)
- JASSOの貸与奨学金、第一種の条件が厳しすぎる。世帯収入ではなく、大学での成績を見てほしい。成績条件を満たしているのに、世帯収入で足切りにするのはおかしいと思う。GPA を上にあげる努力はしたが、特に恩恵を感じられないので大学全体のモチベーションが大きく低下した。通学時間もそこそこ長く、惰性で大学に行っているので、毎日が辛い。世帯収入が高いからと言って全員が全員、学費を払えるとは思わないでほしいです。(私立・文科系・2年・男性・自宅)
- 奨学金の返済が怖い。漠然とした不安が将来にあります。奨学金の話はなかなか気軽に話せる内容でないため、誰にも不安を打ち明けられず、また、日々お金がかかるので必死にアルバイトをしています。金銭的に苦しい学生がいるのは事実かな、と思います。(国公立・理工系・2年・女性・自宅)
- 親が払ってくれているのは授業料と家賃で、仕送りはなく、光熱費は自分持ちなので、バイトを掛け持ちしていても、趣味と部活をどちらも楽しむほどのお金が稼げず、毎月お金の心配をしています。大学自体は友達がいて楽しいのですが、貸与型の奨学金は借金と思うと申し込む気にはなれず、しんどいです。親の一方が諸事情で所得を減らしたために税金などの関係で親からの仕送りが無い状況ですが、前年の所得で決められるので給付型の奨学金の対象者にはなれず、成績はいいのに受給できません。もっと奨学金を申請しやすくして欲しいと思います。(国公立・文科系・2年・女性・自宅外)
- これから奨学金の返還が困りそう。(私立・文科系・4年以上・女性・自宅)
- 自分の稼ぐお金と奨学金だけで生活をうまくやりくりすることに苦勞を感じるし余裕がなくてすごくストレスを感じることもある。(国公立・医歯薬系・2年・女性・自宅外)
- まだバイトする余力はあるのに奨学金の所得制限が学生にもあるせいで満足に働けない。結局親が学費や大学生活で必要最低限のお金を工面してくれないと満足な大学生活は送れない。(国公立・理工系・2年・男性・自宅)